

多摩美術大学研究紀要総目次

第1号(1983年3月23日発行)

- 5 発刊のことば——内藤頼博(多摩美術大学理事長)
- 9—52 ヨーロッパ油彩画の日本土着過程の研究Ⅲ——多摩美術大学材料学研究室
- 12—26 I. 小布施東町祭屋台天井画「竜図」(北斎)の技法史的研究——佐々木静一(芸術学科教授)
- 27—42 II. 小布施東町祭屋台天井画「竜図」の復元試作記録およびその材料について——平井達郎(学科担当助手)
- 43—52 III. 小布施東町祭屋台天井画「竜図」主要部の復元試作記録——石堂重本+干村直行+岡しげみ+有福一昭(大学院学生)
- 53—58 大衆僉議考——清田義英(学科担当教授)
- 59—65 『疎外』の語源的・意味論的探求——嶋根 昭(学科担当教授)
- 67—71 Everything you always wanted to know about the japanese question!——大道文子(学科担当助教授)
- 73—83 造形過程の構造——草深幸司(デザイン科助教授)
- 85—123 屋外広告研究Ⅰ—屋外広告における視覚表現の変遷と今後の展開(1)——田口敦子(デザイン科助教授)
- 125—133 屋外広告研究Ⅰ—屋外広告における現状調査(1)—八王子市の場合——山本博子(デザイン科助手)+田口敦子(デザイン科助教授)
- 135—152 ムカルナス(回教建築の鍾乳石状装飾)——高橋史郎(デザイン科助教授)
- 153—167 英国における最近の学校教育施設——原 坦(建築科教授)
- 169—177 都市を潤す「水空間」の構造とその魅力—都市のなかを流れる用水路調査を背景として——渡部一二(建築科助教授)
- 179—189 近世日本建築装飾技法の発生過程とその源流について——田澤年美(建築科教授)
- 191—197 レイナー・バンナム書誌目録——山下 泉(建築科助教授)
- 199 あとがき——奥野健男(学科担当教授) ()内の職名は1988年4月当時による

第2号(1985年8月26日発行)

- 5 紀要第2号の刊行に際して——内藤頼博(多摩美術大学理事長)
- 9—11 私のメモランダム—1984年1月1日—1月20日(リトグラフ)——小作青史(絵画科教授)
- 13—26 近世(十八世紀後半以降)のアジアに於けるプルシアン・ブルーの追跡——佐々木静一(芸術学科教授)
- 27—33 高橋由一「鯛」修復——黒江光彦(絵画修復家)
- 34—40 ヨーロッパ硝子絵技法と中国硝子絵技法——平井達郎(学科担当助手)
- 41—48 中世寺院の「無記名投票」についての覚書——清田義英(学科担当教授)
- 49 雪の日(日本画)——米谷清和(絵画科講師)
- 51 “ある風景”(油彩画)——宮崎 進(絵画科教授)
- 53—69 〈大ガラス〉の透視図法——岩佐鉄男(学科担当非常勤講師)
- 71 位相(油彩画)——木村一生(デザイン科教授)
- 73—79 室町水墨画における画僧の制作意識についての一考察—とくに愚溪右慧のそれを中心にして——横田忠司(学科担当助教授)
- 81—91 漢字における表現方法の分析—書の直接的表現と間接的表現——田村伸夫(学科担当非常勤講師)
- 93—98 空気膜造形——高橋史郎(デザイン科助教授)
- 99 細線文花器(ガラス造形)——奥 二郎(デザイン科教授)
- 101—107 「テンペラ・リヴァイヴァル」その意義と系譜——深澤純子(デザイン科助手)
- 109—117 水の造形美をさぐる—ローレンス・ハルプリン氏の作品—ポートランド——渡部一二(建築科助教授)
- 119—130 テキスタイルと空間触覚的考察——わたなべひろこ(デザイン科教授)
- 132—133 オナリ・ひさご・渡る(テラコッタ彫刻)——寒川典美(彫刻科教授)
- 135 “デコレーション” 質感希薄な空間のために(陶磁)——中村錦平(絵画科教授)
- 137—164 屋外広告研究Ⅱ—屋外広告における視覚表現の変遷と今後の展開(2)——田口敦子(デザイン科助教授)
- 165—177 屋外広告研究Ⅱ—屋外広告における現状調査(2)—甲府市の場合——山本博子(デザイン科助手)+田口敦子(デザイン科助教授)

- 179—183 東と西の風水車のデザイン——川上顕治郎(デザイン科助教授)
- 185—198 美術系大学キャンパスの施設に関する分析—芸術系大学キャンパスの設計計画に関する研究—1——岩下 肇(建築科助手)
- 200—201 物質から素材へ、そして装置へ(インスタレーション)——海老塚耕一(芸術学科非常勤講師)
- 203 間仕切のれん“束”と“結”(染色)——古田重郎(デザイン科元教授)
- 205—232 米国の最近の学校建築について—北、東、南部主要4都市の学校建築、学校システム、建築企画についての考察と我国との比較——原 坦(建築科教授)
- 235 あとがき——奥野健男(学科担当教授) ()内の職名は1988年4月当時による

第3号 創立50周年記念(1987年8月31日発行)

- 5 多摩美大50周年記念号によせて——内藤頼博(多摩美術大学理事長)
- 9—11 廃墟にて(木版画)——李 禹煥(芸術学科教授)
- 13—29 中国の小・中学校と新設完全中学校の月中協作設計——長倉康彦(都立大学教授)+原 坦(建築科教授)
- 31—40 多摩ニュータウンB4地区に於ける自然環境保全について——宮下太郎(学科担当教授)
- 41 色光と曲線で創る空間(フォトデザイン)——増田 正(デザイン科教授)
- 43 雲と星(木版画)——吹田文明(絵画科教授)
- 45—53 ル・コルビュジェ(Le Corbusier)が創った「水の空間」——渡部一二(建築科助教授)
- 55—64 ディスプレイ用ホログラムの画質改良—視域拡大、回折効率の向上——勝間ひでとし(学科担当教授)
- 65—66 「紙背文書」ノート—室町期の「某注文」について——清田義英(学科担当教授)
- 68—70 装い—ある健康保険組合の建物——田中 一(建築科教授)
- 71 THE FOUNDER '86「舞」(油彩画)——鶴見雅夫(絵画科教授)
- 73—79 東と西の風水車の神々——川上顕治郎(デザイン科助教授)
- 81—88 色彩のメタランガージュ——深澤純子(デザイン科助手)
- 89 おぼろ(日本画)——加山又造(絵画科特別講師)
- 91—96 「蔵前」時代の浜田庄司の作品とその周辺—新発見の「浅草文庫」の版画、詩歌作品を中心に——奥野健男(学科担当教授)
- 97—115 国立公文書館における近代教育史資料の研究—明治元年～同18年の明治政府公文書を中心として——西谷成憲(学科担当助教授)
- 117 古代を憶う(染色)——堀 友三郎(デザイン科教授)
- 119 鷹(石彫)——中井延也(彫刻科教授)
- 121—138 体育、スポーツにおける利き=ラテラリティーについて—主に左利きの取扱いを中心にして——佐原龍誌(学科担当講師)
- 139—146 大地に立って手をつなごう—館山市立九重小学校・九重幼稚園(建築)——山下 泉(建築科助教授)
- 147 退屈な風景(油彩画)——松本英一郎(デザイン科教授)
- 149—156 キネチックアートの製作——高橋史郎(デザイン科助教授)
- 157 築(ガラス造形)——伊藤 孚(デザイン科助教授)
- 159—162 「構成を決めるのは何か」という問い——宇佐美圭司(芸術学科助教授)
- 163—188 屋外広告研究Ⅲ—屋外広告における視覚表現の変遷と今後の展開(3)——田口敦子(デザイン科助教授)
- 189—198 現代デザインの史的考察Ⅰ—現代デザインの啓蒙期と山名文夫をめぐって——大淵武美(学科担当教授)
- 200—201 雲水了了・回帰—作品、嵯峨野をめぐって(油彩画)——片岡真太郎(デザイン科元教授)
- 203 円環(舞台美術)——田中稔之(絵画科教授)
- 205—219 繊維デザインとテクノロジー—その相関—ものづくりの視点から——わたなべひろこ(デザイン科教授)
- 221—240 インドネシア硝子絵調査報告Ⅰ——佐々木静一(芸術学科教授)+ワヒヨノ・マルトウイクリド(インドネシア国立博物館館員)+平井達郎(学科担当助手)
- 241—256 A Report of the Indonesian Painting on Glass Ⅰ——Seichi Sasaki + Wahyono Martowikrido + Tatsuro Hirai
- 257—265 Introduction to the Indonesian Folk Story and Wayang depicting on Painting on Glass——Wahyono Martowikrido
- 266—276 インドネシア硝子絵技法Ⅰ—昭和58年度現地調査報告(ジャワ、スマトラ篇)——平井達郎(学科担当助手)
- 277—284 インドネシア硝子絵調査資料図版(カラー)

- 285—309 インドネシア硝子絵調査資料図版(モノクロ)
 310—316 インドネシア硝子絵調査資料図版リスト
 317—319 インドネシア硝子絵調査日程表
 321 あとがき——奥野健男(学科担当教授) ()内の職名は1988年4月当時による

第4号(1989年3月31日発行)

- 5 紀要第4号の刊行に寄せて——後藤侑士(多摩美術大学学長)
 9 かえってこない刻^{とき}(日本画)——上野泰郎(絵画科教授)
 11 絵画のなかの都市^{まち}づくり(アクリル・油彩画)——福島 誠(絵画科教授)
 13—34 ジョヴァンニ・パディーレの作品カタログのために——小佐野重利(学科担当講師)
 35—47 カーテンウォール構法の雨仕舞設計—オープンジョイントの20年——森下清子(建築科助教授)
 49 永遠—愛——国際平和年記念彫刻作品(木彫)——竹田光幸(彫刻科助教授)
 51 浮いた風景(油彩画)——岡崎 紀(絵画科助教授)
 53—56 街に佇む—日本基督教団小金井教会・小金井教会幼稚園(建築)——田淵 諭(建築科講師)
 57—71 屋外広告研究Ⅳ—屋外広告における現状調査(3)—首都圏核都市(東京都町田市・八王子市・埼玉県川越市・大宮市)の場合——田口敦子(デザイン科助教授)+ 山本博子(デザイン科助手)
 73—82 府中刑務所外塀彩色デザイン(壁面デザイン)——竹内成志(デザイン科教授)
 83—88 螺旋水車(ダイロ)——川上顕治郎(デザイン科助教授)
 89—96 第二国立劇場設計競技応募案(建築)——平山 達(建築科助教授)
 97—104 ビデオと写真の微速度定点観測(ビジュアル・フォト)——萩原朔美(芸術学科助教授)
 105—116 ポケットパークの空間演出——岩下 肇(建築科助手)
 117—128 鎌倉のはずれの風景—「龍の口」あたりの歴史的景観——清田義英(学科担当教授)
 129—145 スポーツにおける「左回り」の謎—スポーツの意味と内容を踏まえて——佐原龍誌(学科担当講師)
 147—160 FIBER AS ART 相乗する繊維—企画展にみるファイバーアートの動向——わたなべひろこ(デザイン科教授)
 161—162 間—システム・ユニット家具(インテリアデザイン)——高木 晃(デザイン科教授)
 163 “Border” —Free From Canvas(アクリル着彩)——神谷清和(デザイン科助教授)
 165 夕の回想(日本画)——中野嘉之(絵画科助教授)
 167—171 独身社員寮〈けやき〉(建築)——井出一 済(建築科助教授)
 173—176 リゴグラム(フォトデザイン)——脇 リギオ(デザイン科教授)
 177—188 実践された批評のパスサーージュ 翻訳; ‘Re-viewing Modernist Criticism’ by Mary Kelly——深澤純子(デザイン科助手)
 189—258 インドネシア硝子絵調査報告Ⅱ——佐々木静一(芸術学科教授)+ ワヒヨノ・マルトウイクリド(インドネシア国立博物館館員)+ 平井達郎(学科担当助手)
 193—200 インドネシア硝子絵調査報告Ⅱ 資料図版(カラー)
 201—222 A Report of The Indonesian Painting on Glass Ⅱ——佐々木静一(芸術学科教授)+ ワヒヨノ・マルトウイクリド(インドネシア国立博物館館員)+ 平井達郎(学科担当助手)
 223—240 インドネシア硝子絵調査報告Ⅱ(邦訳)
 241—254 インドネシア硝子絵調査報告Ⅱ 資料図版(モノクロ)
 255—258 インドネシア硝子絵調査報告Ⅱ 資料図版リスト
 259—260 電脳疑似空間(遺稿)——箱崎総一(学科担当教授)
 262—264 多摩美術大学研究紀要総目次
 265 あとがき——奥野健男(学科担当教授) ()内の職名は1990年4月当時による

第5号(1990年9月30日発行)

- 5 紀要第5号の刊行に寄せて——後藤狷士(多摩美術大学学長)
- 11—13 星をみる人・歩いてくる人(版画)——深沢幸雄(絵画科教授)
- 15 櫻映(日本画)——市川保道(絵画科教授)
- 17 白い道(エジンバラ風景)(日本画)——榊田隆一(絵画科助教授)
- 19 かつばおばけ(油彩画)——浅井 昭(絵画科助教授)
- 21—22 UNIT(油彩画)——今井信吾(絵画科教授)
- 23—24 石が風になった時・遙かなる大地 '89- I (クレイワーク)——川辺美佳(絵画科非常勤講師)
- 25 光焰・鳥と魚 I (アクアチント+メゾチント)——渡辺達正(絵画科助教授)
- 27—28 あら今日は—横浜高島屋開店二十五周年記念像(彫刻)——工藤 健(彫刻科教授)
- 29—30 凝滑(油彩画)——木村一生(デザイン科教授)
- 31 box 4 から(コンピュータ・グラフィック)——草深幸司(デザイン科教授)
- 33 グロリオサII(染織)——桂川幸助(デザイン科助手)
- 35 Shade-Variation II -2(染織)——橋本京子(デザイン科助教授)
- 37 胎動(鍛金)——野口裕史(デザイン科助教授)
- 39—40 無題(アクリル)——柏木 弘(芸術学科助手)
- 41—42 ケース・スタディ 4 例—券売カウンター(テケツ)(建築)——山下 泉(建築科助教授)
- 43—51 美的概念の論理的特性について—シプリの論考を巡って——村山康男(芸術学科助教授)
- 53—58 堀辰雄とフランス文学(後編)—比較文学的アプローチ——松田嘉子(学科担当助教授)
- 59—74 東京府における女礼式導入に関する研究——西谷成憲(学科担当助教授)
- 75—80 ヘーゲル《美学講義》の書誌学——嶋根 昭(学科担当教授)
- 81—86 我国「スポーツ権」思想の系譜(I)——佐原龍誌(学科担当助教授)
- 87—105 池大雅筆 東京国立博物館蔵「六遠山水図」について——坂口 薫(学科担当副手)
- 107—119 15世紀イタリアの壁画制作におけるスポルヴェロ法の意味について——諸川春樹(学科担当講師)
- 121—138 西ドイツ・オランダ・フランス・イギリスの学校建築——原 坦(建築科教授)
- 140—142 多摩美術大学研究紀要総目次
- 143 あとがき——奥野健男(学科担当教授)

()内の職名は1991年4月当時による

第6号(1991年11月1日発行)

- 5 紀要6号の発刊にあたって——後藤狷士(多摩美術大学学長)
- 9—11 火の華(木版)——吹田文明(絵画科教授)
- 13 朝光のトレド(日本画)——松尾敏男(絵画科教授)
- 15 おもいわずらうとき(日本画)——上野泰郎(絵画科教授)
- 17 青(油彩画)——瀬島好正(名誉教授)
- 19 四季の女(油彩画)——相笠昌義(絵画科教授)
- 21—22 Mystical Scene(油彩, 銅箔キャンバス)——小作青史(絵画科教授)
- 23—40 沈南蘋周辺——近藤秀実(学科担当助教授)
- 41—56 ヨゼフ・スボボダー劇場におけるマルチ・メディア・プロダクションの先達者——福島勝則(二部芸術学科助教授)
- 57—64 室町後期の寺院法式—浄土寺院法式について——清田義英(学科担当教授)
- 65—73 わが国における森林美学研究の系譜と技術適用の条件——筒井迪夫(二部学科担当教授)
- 75—80 我国「スポーツ権」思想の系譜(II)——佐原龍誌(学科担当助教授)
- 81—88 Le divers éclairages de l'idée d'indifférence dans le monde romanesque de Camus——浜西和子(二部学科担当非常勤講師)
- 89—93 身体運動の生化学的動態——伊藤洋子(二部学科担当講師)

- 95—104 テキサスを変革する女たち—ヒューストン市長キャサリン・ホウィットマイア——樋口祐子(二部学科担当助教授)
- 105—112 文久3年の英単語帳—栗本一郎と漂難者達とのコミュニケーション——佐渡谷紀代子(二部学科担当助教授)
- 113—133 池大雅筆 万福寺東方丈襖絵「五百羅漢図」について——坂口 薫(学科担当助手)
- 135—136 時空・31(彫刻)——石井厚生(彫刻科教授)
- 137—138 闇に浮く—新しい素材と出会って(建築)——山下 泉(建築科教授)
- 139 さくら90-101(油彩画)——松本英一郎(デザイン科教授)
- 141—142 ORNIS I “白鳥たち”
ORNIS II “忘れられた時” (染織)——檜垣 檀(デザイン科助教授)
- 143—144 街を映す—IWAKI BUILDING(建築)——田淵 諭(建築科講師)
- 145 南の島からの贈りもの '90-1(染織)——弥永保子(デザイン科助手)
- 147 無題(彫刻)——古田 裕(芸術学科助手)
- 149—155 ケ・ヤ・キ・絵・ロ・ー・ド—府中刑務所外塀彩色デザイン(そのII)(壁面デザイン)——竹内成志(デザイン科教授)
- 157—171 公共建築物への文化性導入の状況について(その1)——原 坦(建築科教授)+平山 達(建築科教授)+山下 泉(建築科教授)+岩
下 肇(建築科助手)
- 172—175 多摩美術大学研究紀要総目次
- 176 あとがき——奥野健男(学科担当教授) ()内の職名は1992年4月当時による

第7号(1992年12月1日発行)

- 5 紀要第7号刊行に寄せて——後藤狷士(多摩美術大学学長)
- 9—11 レースと魚(銅版画)——渡辺達正(絵画科助教授)
- 13 凍る日輪(日本画)——中野嘉之(絵画科助教授)
- 15 花とフルーツ(油彩画)——小野州一(絵画科非常勤講師)
- 17 零度90-17/零度90-18(金属、アクリル画)——木嶋正吾(絵画科講師)
- 19 コラージュの種(ネタ)(コラージュ)——室越健美(絵画科講師)
- 21 My Space and My Dimension(木版・シルクスクリーン)——船坂芳助(絵画科非常勤講師)
- 23 大地が歩く(ブロンズ)——安倍千隆(彫刻科助教授)
- 25—26 White Golf Balls(写真)——脇 リギオ(デザイン科教授)
- 27 タムロング(テキスタイル)——粟辻 博(デザイン科教授)
- 29 スペイン紀行(油彩画)——大津英敏(二部絵画学科教授)
- 31—36 可倒式ボールとプロテクターデザイン——大島礼治(デザイン科助教授)
- 37—40 絵画の方程式——高橋史郎(デザイン科教授)
- 41—50 インド・ラジャスターンの都市——岸本 章(建築科非常勤講師)
- 51—71 顔輝 魂魄遊離の世界——近藤秀実(学科担当助教授)
- 73—86 森林美を重視した森づくり技術の在り方について—事例を中心にした検討——筒井迪夫(二部学科担当教授)
- 87—100 生活文化の集落および住居におよぼす影響に関する基礎調査—琵琶湖尾上集落——田中 一(建築科教授)+森下清子(建築科教授)
+山下 泉(建築科教授)+岩下 肇(建築科助手)
- 101—110 写真家による日記あるいは自伝的試み—ソフィ・カル『尾行』に即して——村山康男(芸術学科助教授)
- 111—117 脳死および臓器移植についての疑問——嶋根 昭(学科担当教授)
- 119—133 東京府における女礼式に関する研究—改正教育令期を中心に——西谷成憲(学科担当助教授)
- 135—139 我国「スポーツ権」思想の系譜(Ⅲ)——佐原龍誌(学科担当助教授)
- 141—165 ロバート・エドモンド・ジョーンズ—1920年代アメリカ現代演劇を革新するビジュアルリスト——福島勝則(二部学科担当助教授)
- 167—177 オレゴンに見るアメリカ女性の社会進出とその現実——樋口祐子(二部学科担当助教授)
- 179—191 本学美術学部二部新入生の社会適応性に関する報告—ラージ・スケール・ロールシャッハテストの結果から——伊藤洋子(二部学科担当
講師)

- 193—198 プルーストの「失われた時を求めて」に於ける匂いと知覚——浜西和子(二部学科担当非常勤講師)
 200—204 多摩美術大学研究紀要総目次
 205 あとがき——奥野健男(学科担当教授)

()内の職名は1993年3月末当時による

第8号(1994年3月1日発行)

- 5 研究紀要第8号刊行に寄せて——後藤狷士(多摩美術大学学長)
 9—11 明日へ……(木口木版)——小林敬生(絵画科非常勤講師)
 13 夕暮れの雨(日本画)——米谷清和(絵画科助教授)
 15 繭状コスモス(朱の瞑想)(油彩画)——田中稔之(絵画科教授)
 17 THE FOUNDER '92-A・新しい出発(ミックスメディア)——鶴見雅夫(絵画科教授)
 19 [接点—II](リトグラフ)——小林清子(絵画科非常勤講師)
 21 幻視地帯Ⅲ(木版)——西田知子(絵画科非常勤講師)
 23 円と方形の啓示(彫刻)——小田 襄(彫刻科教授)
 25—26 北欧の民家(取材カラー)——増田 正(デザイン科教授)
 27 I'm here(ポスター)——秋山 孝(デザイン科講師)
 29 季の彩(織物)——川瀬和子(デザイン科助手)
 31—33 夕陽に映えて—日本基督教団自由が丘教会(建築)——田淵 諭(建築科講師)
 35 銀鷄鳥(日本画)——松下宣廉(二部絵画学科助教授)
 37—38 日本趣味解題(陶芸)——中村錦平(絵画科教授)
 39—41 連関作用／地下の眼差—白州より(彫刻)——海老塚耕一(芸術学科助教授)
 43—60 ベーシック・タイポグラフィ—BASIC TYPOGRAPHY——篠原榮太(デザイン科非常勤講師)
 61—71 松本清張試論—社会派推理小説の機作——奥野健男(学科担当教授)
 73—79 キュビズムとオブジェの関係についてのノート——建島 哲(芸術学科助教授)
 81—100 森林環境保全政策における森林美学の意義に関する研究—付 国有林における施業実例——筒井迪夫(二部学科担当教授)
 101—118 熱帯織物論—ファブリックのコスモロジー——深津裕子(学科担当副手)
 119—132 文久3年の英語単語帳(その2)—栗本一郎の日記とジョン万次郎の発音表記の紹介——佐渡谷紀代子(二部学科担当教授)
 133—144 米国女性の中央政界における躍進とその社会的背景—現厚生省長官ドナ・シャレイラを中心に——樋口祐子(二部学科担当教授)
 145—153 LCD, LD, LD 励起の YAG レーザーを利用したホログラフィックテレビジョンへの基礎実験——勝間ひでとし(学科担当教授)
 155—160 多摩美術大学研究紀要総目次
 161 あとがき——奥野健男(学科担当教授)

()内の職名は1994年3月末当時による

第9号(1995年2月1日発行)

- 5 紀要第9号の発刊にあたって——後藤狷士(多摩美術大学学長)
 9—11 水声から(銅版画)——海老塚耕一(芸術学科助教授)
 13 古城(ドイツ)(日本画)——榊田隆一(絵画科助教授)
 15 啓かれたまち——桜(アクリル画)——福島 誠(絵画科教授)
 17 献火(油彩画)——今井信吾(絵画科教授)
 19 呵(油彩画)——木村一生(絵画科教授)
 21 朝(彫刻)——中井延也(彫刻科教授)
 23—24 36EXP 〈MOMA〉(写真作品)——脇 リギオ(デザイン科教授)
 25—26 phase ver. 1 位相／logos 言葉(リトグラフ)——近藤憲昭(デザイン科助手)
 27 緑燃ゆ——自然への讃歌(ハンドタフテッド)——わたなべひろこ(デザイン科教授)

- 29 飛翔Ⅲ・蒼(織物)——大山 彬(デザイン科助手)
- 31 NEW YORK-GOLDEN CITY(日本画)——平松礼二(二部絵画学科教授)
- 33—36 『機械じかけのピアノのための未完成の戯曲』のための衣裳デザインをめぐって(衣裳デザイン)——加納豊美(二部芸術学科助手)
- 37—47 メディアとインタフェースのデザイン—情報デザイン教育のカリキュラムとその基本的枠組み——須永剛司(二部デザイン科助教授)
- 49—52 伊良子清白の台湾時代(1)—《台湾日記》の輪郭と周辺——平出 隆(芸術学科助教授)
- 53—70 蠟型彫刻の技法及び蠟原型による彫刻技法の研修——宇野 務(彫刻科非常勤講師)
- 71—74 岡倉天心を取り巻く五浦六角堂ならびに赤倉山荘付近の森林状態の再現——筒井迪夫(二部学科担当教授)
- 75—86 アドルフ・アピア—ヘレラウでのダルクローズとのコラボレーション——福島勝則(二部芸術学科教授)
- 87—108 『婦女鑑』に関する研究—草稿本の検討を中心にして——西谷成憲(学科担当教授)
- 109—123 岡倉天心とボストン—ガードナー夫人に捧げられた幻のオペラ「白狐」についての一考察——佐渡谷紀代子(二部学科担当教授)
- 125—142 アメリカにおける女性の社会進出の諸段階——樋口祐子(二部学科担当教授)
- 143—150 河内金剛寺の寺院法式—鎌倉期の寺院法式について——清田義英(学科担当教授)
- 151—169 ヨセフス研究(1) ヨセフスの生涯について(その1)——秦 剛平(学科担当教授)
- 170—175 多摩美術大学研究紀要総目次
- 176 あとがき——奥野健男(学科担当教授)

()内の職名は1995年3月末当時による

第10号 創立60周年記念(1995年11月3日発行)

- 5 研究紀要第10号刊行に寄せて——後藤絹士(多摩美術大学学長)
- 9—12 私のメモランダム(2)—1990年5月28日—6月16日(リトグラフ)——小作青史(絵画科教授)
- 13 おそれ知らぬ人たち(日本画)——上野泰郎(絵画科教授)
- 15 山の秋(日本画)——松尾敏男(絵画科教授)
- 17 駅にて・冬陽(油彩画)——相笠昌義(絵画科教授)
- 19 浮いた風景(油彩画)——岡崎 紀(絵画科教授)
- 21 さくら・うし 94-10(油彩画)——松本英一郎(絵画科教授)
- 23—24 タベのマンドーラ(彫刻)——工藤 健(彫刻科教授)
- 25—29 総合病院のアート・プランニング—待合ホール/スタンドグラス・病棟色彩計画(色彩環境デザイン)——竹内成志(デザイン科教授)
- 31—32 怪物「デジタル」との戦い(デジタルイラストレーション)——田保橋淳(デザイン科教授)
- 33—35 JISHA 安全標識(ピクトグラム)——太田幸夫(デザイン科教授)
- 36—43 デザインのリレイショナルモデル——アンドレアス・シュナイダー(二部デザイン学科講師)
- 44—48 建築古事記 [ドローイング・メモ] ——毛綱毅曠(建築科教授)
- 49—56 都市のかたみ・彫刻の記憶—震災神戸の野外彫刻への思案——米倉 守(学科担当教授)
- 57—72 19世紀フランスにおける写真と絵画——村山康男(芸術学科教授)
- 73—87 水路における「親水空間」デザインの手法——渡部一二(建築科教授)
- 89—95 伊良子清白の台湾時代(2)—「大正五年日記」前半部——平出 隆(芸術学科助教授)
- 97—106 全木製時代のアメリカ東海岸の遺物—風車と水車とライフル——川上顕治郎(デザイン科教授)
- 107—112 シュルツのガラス版画について——工藤幸雄(学科担当教授)
- 113—125 ヨセフス研究(1) ヨセフスの生涯について(その2)——秦 剛平(学科担当教授)
- 127—131 アイディア・ディベロップメント—デザインにおけるアイディアの展開方法——平野拓夫(デザイン科教授)
- 133 GOOD NIGHT, EARTH!(ポスター)——佐藤晃一(デザイン科教授)
- 135—138 大空にはばたく 鳥のように—柚木武蔵野幼稚園(建築)——山下 泉(建築科教授)
- 139 沖融(ミックスドメディア)——田中康夫(二部絵画学科助教授)
- 141—146 都市に於ける住環境のデザイン——山中玄三郎(二部デザイン学科教授)
- 147 PEONY(印象と残像)(染色)——宮川有希(デザイン科助手)

- 149—150 LIGHT SCAPE- II (フォトモンタージュ)——石井 茂(二部芸術学科講師)
- 151—154 光のモザイク—日本基督教団ひばりが丘教会(建築)——田淵 諭(建築科助教授)
- 155—164 開かれた環境芸術—デザインとアートの融合——わたなべひろこ(デザイン科教授)
- 165—171 デザイン演習の三段階 真善美——高橋史郎(デザイン科教授)
- 173—183 日本中世における地方(鄙の)絵画についての基礎研究—関東編 上——横田忠司(学科担当教授)
- 185—203 AA スクールの建築教育の実際——田澤年美(建築科教授)+ 原 坦(建築科教授)+ 平山 達(建築科教授)+ 草深幸司(デザイン科教授)+ 山下 泉(建築科教授)+ 田淵 諭(建築科助教授)+ 連 健夫(建築科非常勤講師)
- 205—215 電子の遠近法—ウルリケ・ガブリエルの「パーセプチュアル・アリーナ／空間のパラドックス」をめぐって——伊藤俊治(学科担当教授)
- 217—234 劇場の研究(1)—今日の日本の劇場・芝居小屋と先端劇場——福島勝則(二部芸術科教授)
- 235—249 生活文化が集落および住居に及ぼす影響に関する基礎調査(2)—琵琶湖菅浦集落——田中 一(建築科教授)+ 森下清子(建築科教授)+ 小西敏正(宇都宮大学建設工学科教授)+ 岩下 肇(建築科助手)
- 251—260 鏡と歪み—ホルバイン「大使たち」の鬚髯表現をめぐる一試論——諸川春樹(学科担当助教授)
- 261—267 自然の音と香りによる心理反応と生理応答—官能評価, POMS, 脈搏, 連続血圧, R-R 間隔, 脳波検査に及ぼす影響——伊藤洋子(学科担当教授)
- 269—302 オーギュスト・ロダン作『地獄の門』のブロンズと石膏のそれぞれのバリエーション, そして2つの鑄造所について——黒川弘毅(芸術学科非常勤講師)
- 303—322 現代版画における技法研究(1)—木版画編——吹田文明(絵画科教授)
- 323—329 多摩美術大学研究紀要総目次
- 330 あとがき——奥野健男(学科担当教授)

()内の職名は1996年12月末当時による

第11号(1997年3月31日発行)

- 5 研究紀要第11号刊行に寄せて——後藤狷士(多摩美術大学学長)
- 9—10 ゆらぎの中で(リトグラフ)——松川幸寛(絵画学科非常勤講師)
- 11 松濤(日本画)——市川保道(絵画学科教授)
- 13 地下から(油彩画)——浅井 昭(絵画学科助教授)
- 15 零度 96-5(金属, レリーフアクリル画)——木嶋正吾(絵画学科助教授)
- 17 天地海風(壁画)——室越健美(絵画学科助教授)
- 19 CREATION(木彫)——竹田光幸(彫刻学科教授)
- 21 新聞広告(カラー見開き30段)——中森陽三(グラフィックデザイン学科教授)
- 23 Over Crowded(ポスター)——澤田泰廣(グラフィックデザイン学科助教授)
- 25 “ORNIS”—天よ, 大きな空 幸福な鳥たち(染織)——檜垣 檀(生産デザイン学科教授)
- 27 大潮・波蝕甌穴(日本画)——南 聡(絵画学科元助手)
- 29—31 9502(染織)——高橋 正(生産デザイン学科講師)
- 32—33 一枚のプレパラートから—Art of Micro-photo(マイクロフォト)——川上顕治郎(生産デザイン学科教授)
- 35 夜の顔(油彩画)——高橋幸彦(二部絵画学科教授)
- 37 RE(フォトコラージュ)——都賀暁野(二部芸術学科元助手)
- 39—41 鶴沼のアトリエ(建築)——岸本 章(環境デザイン学科講師)
- 42—43 D 社のためのカタカナデザイン(タイポグラフィ)——丸山 剛(グラフィックデザイン学科助教授)
- 45—50 櫻の家—建築へのプロセス(建築)——松澤 穰(環境デザイン学科講師)
- 51—68 集合住宅地の景観評価と構成要素分析に関する調査研究—多摩ニュータウン景観意識調査——原 坦(環境デザイン学科元教授)+ 松岡宏吉(環境デザイン学科非常勤講師)
- 69—77 伊良子清白の台湾時代(3)—「大正五年日記」後半部—すなわち大正六年日記——平出 隆(芸術学科教授)
- 79—87 戦後ID50年と豊かさのデザイン——武正秀治(二部デザイン学科助教授)
- 89—92 「衆議」から「集議」へ—河内の古刹観心寺の集会——清田義英(学科教授)

- 93—114 『明治孝節録』に関する研究—明治初期孝子節婦等褒賞との関連において——西谷成憲(学科教授)
- 115—130 「遊びと造形発想展」9年の軌跡—造形教育と遊び心——小笠原登志子(二部デザイン学科助教授)
- 131—142 日本中世における地方絵画についての基礎研究—関東編 下——横田忠司(学科教授)
- 143—149 岡倉天心の「白狐」と荘子の思想——小穴晶子(二部学科助教授)
- 151—167 弘化2年マンハッタン号浦賀湊入津—日米交流と通詞森山栄之助への影響——佐渡谷紀代子(二部学科教授)
- 169—183 身体から映画へ——林 智明(二部技術センター技術職員)
- 185—199 現代版画における技法研究(2)—リトグラフ編——小作青史(絵画学科教授)
- 201—208 多摩美術大学研究紀要総目次
- 209 あとがき——奥野健男(学科元教授) ()内の職名は1998年3月末当時による

第12号(1998年3月31日発行)

- 5 研究紀要第12号の発刊に寄す——後藤狷士(多摩美術大学学長)
- 9—12 デッサン(リトグラフ)——浅井 昭(絵画学科元助教授)
- 13 壁化するひとたち(Ⅱ)(日本画)——戸田康一(絵画学科教授)
- 15 Birth(日本画)——大山直人(絵画学科助手)
- 17 THE FOUNDER '96 新しい出逢い(油彩画)——鶴見雅夫(絵画学科教授)
- 19 CONTRAST 赤と緑(油彩画)——田中稔之(絵画学科教授)
- 21 姉妹眠る(油彩画)——今井信吾(絵画学科教授)
- 23 時空・114(彫刻)——石井厚生(彫刻学科教授)
- 25 穂(立体作品)——川口雄勝(グラフィックデザイン学科元助手)
- 27 ELEPHANT(日本画)——坂本一樹(二部絵画学科助手)
- 29 水の布置(写真)——市川美幸(グラフィックデザイン学科元助手)
- 31 Board(ボックス・コンストラクション)——道古 明(グラフィックデザイン学科元助手)
- 33 椅子-AT8(家具デザイン)——高木 晃(生産デザイン学科教授)
- 35 充気膜造形——高橋史郎(情報デザイン学科教授)
- 37 ORIGAMI-NE2(ファイバーワーク)——橋本京子(生産デザイン学科教授)
- 39 ~from nippon letters(テキスタイルサーフェイス)——大森 幹(生産デザイン学科助手)
- 41 樹層(ファイバーワーク)——田中孝明(生産デザイン学科助手)
- 43 海からの風・海に祈る(油彩画)——大津英敏(二部絵画学科教授)
- 45—48 風受けし帆船の如くに—日本基督教団九段教会(建築)——田淵 諭(環境デザイン学科助教授)
- 49—51 阿蘇町農村公園アートプロジェクト(建築)——堀 正人(旧建築科非常勤講師)
- 52—66 フィレンツェ洗礼堂スカルセッラ天井モザイク装飾の図像プログラム——松浦弘明(共通教育担当講師)
- 67—78 江南の市隠画家・鄭鶴仙——近藤秀實(共通教育担当教授)
- 79—88 経験の表現と動的情報のかたち——植村朋弘(二部デザイン学科講師)
- 89—97 日本中世における地方絵画についての基礎研究—中部編 1(静岡)——横田忠司(共通教育担当教授)
- 99—124 パリの鑄造所によるブロンズ彫刻の屋外での変化と表面生成物——黒川弘毅(芸術学科非常勤講師)
- 125—128 家(建築)——岩下 肇(旧建築科元助手)
- 129 LIGHT SCAPE-Ⅲ 境界(フォトモンタージュ)——石井 茂(二部芸術学科助教授)
- 131—136 木下順二作『沖繩』にはまる・『沖繩』ではらむ——加納豊美(二部芸術学科講師)
- 137—152 現代版画における技法研究(3)—銅版画編——深澤幸雄(絵画学科元客員教授)+ 森野眞弓(絵画学科教授)+ 渡辺達正(絵画学科教授)
- 153—161 多摩美術大学研究紀要総目次
- 162 あとがき——多摩美術大学研究紀要編集委員会 ()内の職名は1998年12月末当時による

第13号 (1999年3月31日発行)

- 5 紀要 13 号の刊行に寄せて——後藤狷士(多摩美術大学元学長)
- 9—10 樹・'99(Roots・1999)(木版画)——小林敬生(絵画学科教授)
- 11 GLOBE 那智・301(日本画)——武田州左(絵画学科元非常勤講師)
- 13—14 生活空間のかたち——四季の意識(アクリル画)——福島 誠(絵画学科教授)
- 15 彫(油彩画)——木村一生(絵画学科教授)
- 17—18 佐藤君の空 I・II(リトグラフ)——馬場 満(絵画学科元助手)
- 19 思考する大地(彫刻)——安倍千隆(彫刻学科助教授)
- 21 “TOMB” for Saint-Exupéry(コノテーション・ワーク)——藤井尚子(生産デザイン学科助手)
- 23 今治国際ホテル中庭『瀑松庭』(環境デザイン)——柘野俊明(環境デザイン学科教授)
- 25—32 Livre Latent 潜在の書(写真)——港 千尋(情報デザイン学科助教授)
- 33 意境(ミクストメディア)——田中康夫(造形学科助教授)
- 35—38 七辻(写真)——富田友紀子(映像演劇学科助手)
- 39—45 〈exhibition ima〉—ベルリン Bauhaus Archiv での展覧会報告——鋼 利治(デザイン学科講師)
- 47—63 DTP 作品集『リゴグラム 〈幻想の風景〉』における色のアート & サイエンス(写真)——脇 リギオ(グラフィックデザイン学科教授)
- 65—71 デジタルコンテンツ流通のデザイン——平野拓夫(生産デザイン学科教授)
- 73—84 ジャスパー・ジョーンズとアメリカの詩——村山康男(芸術学科教授)
- 85—94 もの派について——渡辺嘉幸(芸術学科助手)
- 95—105 エウセビオスの『教会史』に見る反ユダヤ主義——秦 剛平(共通教育担当教授)
- 107—120 日本中世における地方絵画についての基礎研究—中部編 2(岐阜)——横田忠司(共通教育担当元教授)
- 121—136 環境と繊維—ものづくりの立場からの交錯的考察——わたなべひろこ(生産デザイン学科教授)
- 137—155 何故「東京焼」なのか—わたしのケーススタディ 1981-98(陶)——中村錦平(工芸学科教授)
- 157—167 身体から映画へ(2) 感応する身体——林 智明(技術センター技術職員)
- 169—180 アルゼンチン時代のルーチョ・フォンターナー『白の宣言』成立の背景を追う 上——峯村敏明(芸術学科教授)
- 181—217 防災サイン研究 避難場所誘導サインシステムの開発——田口敦子(グラフィックデザイン学科教授)+ 佐藤 優(九州芸術工科大学教授)+ 松澤 穰(環境デザイン学科講師)+ 宮沢 功(GK 設計専務取締役)
- 218—226 多摩美術大学研究紀要総目次
- 227 あとがき——清田義英(共通教育担当教授) ()内の職名は2000年3月末当時による

第14号 (2000年3月31日発行)

- 5 紀要 14 号の刊行に寄せて——辻 惟雄(多摩美術大学学長)
- 9—10 版種 5/版種 6——萩原朔美(芸術学科教授)
- 11 木と水(日本画)——千々岩 修(絵画学科助手)
- 13 42 番街の日だまり(油彩画)——相笠昌義(絵画学科教授)
- 15 ある風景(油彩画)——岡崎 紀(絵画学科教授)
- 17—18 住み慣れた小天地(銅版画)——伊達木明人(絵画学科元助手)
- 19—23 溶かされた金属(彫刻)——小田 襄(彫刻学科教授)
- 25 隔たりと影(ガラス造形)——伊藤 孚(工芸学科教授)
- 27 Illusion of Asia(デジタルプリント)——田保橋 淳(グラフィックデザイン学科教授)
- 29 南の島からの贈り物—Passionate Island(染織)——弥永保子(生産デザイン学科助教授)
- 31—32 Sarto ジーノのアトリエ(油彩画)——北條正庸(造形学科助教授)
- 33—34 GOOD MORNING! MOON(ポスター)——佐藤晃一(グラフィックデザイン学科教授)
- 35—36 音楽用補聴ヘッドホンシステム(デザイン)——平野拓夫(生産デザイン学科教授)
- 37—39 空間概念の変容(建築)——入江経一(情報デザイン学科元教授)

- 41—48 農村環境整備における色彩コントロールのあり方についての検討——田口敦子(グラフィックデザイン学科教授)+佐藤 優(九州芸術工科大学教授)+松澤 穰(環境デザイン学科講師)+小泉雅子(グラフィックデザイン学科講師)
- 49—59 明清時代の天鷲絨^{ビロード}に関して—織物組織の分析を中心に——吉田雅子(共通教育学科非常勤講師)
- 61—84 “場所”の様態——山下 泉(環境デザイン学科教授)+清田義英(共通教育学科教授)+田淵 諭(環境デザイン学科助教授)+岸本章(環境デザイン学科助教授)+永野義紀(東和大学助教授)+松澤 穰(環境デザイン学科講師)
- 85—106 屋外に設置された明治期ブロンズ彫刻の表面状態と腐食生成物Ⅰ. —大熊氏廣作「有栖川織仁親王像」の保存状態——黒川弘毅(芸術学科元講師)
- 107—117 池大雅筆「莊子夢蝶図」について——小林優子(共通教育学科非常勤講師)
- 119—140 木彫刻制作における技法研究(Ⅰ)—「木彫刻制作技法書」より抜粋——竹田光幸(彫刻学科教授)
- 141—158 アルゼンチン時代のルーチョ・フォンターナー—「白の宣言」成立の背景を追う 下——峯村敏明(芸術学科教授)
- 159—166 Historical Role and Capability of Visual Language——太田幸夫(デザイン学科教授)
- 167—176 多摩美術大学研究紀要総目次
- 177 あとがき——清田義英(共通教育学科教授) ()内の職名は2001年3月末当時による

第15号(2001年3月31日発行)

- 5 多摩美術大学研究紀要第15号刊行に寄せて——辻 惟雄(多摩美術大学学長)
- 9—10 音の記憶(木版画)——古谷博子(元絵画学科非常勤講師)
- 11 杜(日本画)——市川保道(絵画学科教授)
- 13 宙^{そら}の花(ミクストメディア)——室越健美(絵画学科教授)
- 15 零度・青海波—1(ミクストメディア)——木嶋正吾(絵画学科助教授)
- 17 土の記憶 2000—16(ミクストメディア)——菊地武彦(絵画学科講師)
- 19—20 海流図(リトグラフ)——石原 誠(元絵画学科助手)
- 21 石—「其の八」(石彫刻)——水上嘉久(彫刻学科講師)
- 23 雲になる樹(工芸)——野口裕史(工芸学科教授)
- 25 Alphabet “PAZ-2” (タイポグラフィ)——丸山 剛(グラフィックデザイン学科助教授)
- 27 赤の鼓動(テキスタイルデザイン)——わたなべひろこ(生産デザイン学科教授)
- 29—32 泉北に両手を広げて—日本基督教団 泉ヶ丘教会(建築)——田淵 諭(環境デザイン学科助教授)
- 33 庄川墨愁(日本画)——平松礼二(造形学科教授)
- 35—42 制作ノート(1999—2000)—境界, 端, 限界から存在の制作へ——海老塚耕一(芸術学科教授)
- 43—44 デジタルカメラ“DC4800”“DC3800”(2000年)—コダック株式会社(プロダクトデザイン)——平野拓夫(名誉教授)
- 45—68 木彫刻制作における技法研究(Ⅱ)—「木彫刻制作技法書」より抜粋——竹田光幸(彫刻学科教授)
- 69—82 情報伝達メディアの発展と経済システムの連動性—コミュニケーション手段の多様化と社会の変容——駒橋恵子(共通教育学科講師)
- 83—100 35ミリ60秒 デジカメ・映画研究——檜山茂雄(映像演劇学科助教授)+村穂秀児(メディアセンター技術職員)
- 101—142 <RW トータルカラーマネージメントシステム RW-CMS>の完成 そのあらましと検証——脇 リギオ(グラフィックデザイン学科教授)
- 143—170 肖像画家曾鯨—精神の真実——近藤秀實(共通教育学科教授)
- 171—173 視線との会話—第1回「存在と不在の間にあるもの」——高橋周平(共通教育学科助教授)
- 174—184 多摩美術大学研究紀要総目次
- 185 あとがき——清田義英(共通教育学科教授) ()内の職名は2002年3月末当時による

第16号 (2002年3月31日発行)

- 5 多摩美術大学研究紀要第16号刊行に寄せて——辻 惟雄(多摩美術大学学長)
- 9—10 無題(木版画)——西岡久實(絵画学科元助手)
- 11 想い遠望すれどー(日本画)——中野嘉之(絵画学科教授)
- 13—14 生活空間のかたち—四季の選択(油画)——福島 誠(絵画学科教授)
- 15—16 「メヌエット」(彫刻)——工藤 健(彫刻学科教授)
- 17—18 棲花中奇怪面相之図 [其の壺] (デジタルイラストレーション)——田保橋 淳(グラフィックデザイン学科客員教授)
- 19 水の上の振り子(彫刻)——舟越 桂(造形学科客員教授)
- 20—21 かえる日(彫刻)——小泉俊己(絵画学科講師)
- 23—24 UNTITLED 2(ドローイング)——柏木 弘(生産デザイン学科講師)
- 25—30 多摩美術大学に関する一連のグラフィックデザイン 1994—2001——秋山 孝(グラフィックデザイン学科教授)
- 31 舞い葉(ガラス)——奥 二郎(工芸学科教授)
- 33—34 どこへいく, 心の旅(インスタレーション)——原 正佳(絵画学科助手)
- 35—37 霏霏 99—4R(銅版画)——大矢雅章(絵画学科元助手)
- 38—43 「かたちはこころ」—わたしのデザイン考——岩倉信弥(生産デザイン学科教授)
- 45—49 瀧口修造とフランク・オハラ——村山康男(芸術学科教授)
- 51—72 瀧口修造 1958年ヨーロッパ紀行——渡辺嘉幸(芸術学科助手)+ 大倉麗菜(芸術学科助手)
- 73—88 多摩美術大学史基礎研究—公文書史料を中心に——西谷成憲(共通教育学科教授)
- 89—103 17世紀と18世紀の英訳ヨセフス—近代語訳の誕生とその背景 その1——秦 剛平(共通教育学科教授)
- 105—122 不確実性下の意思決定における経済報道の影響—実体経済の自己組織化と「ゆらぎ現象」の増幅について——駒橋恵子(共通教育学科助教)
- 123—133 赤色における天然染料と生薬の類似性の研究——藤井尚子(生産デザイン学科元助手)
- 135—144 農村環境における色彩コントロールのあり方についての検討(2)——田口敦子(グラフィックデザイン学科教授)+ 重岡 徹(社団法人農村環境整備センター)+ 佐藤 優(九州芸術工科大学教授)+ 小泉雅子(グラフィックデザイン学科非常勤講師)
- 145—155 多摩美術大学研究紀要総目次
- 157 あとがき——建島 哲(芸術学科教授) ()内の職名は2003年3月末当時による

第17号 (2003年3月31日発行)

- 5 多摩美術大学研究紀要第17号刊行に寄せて——辻 惟雄(多摩美術大学元学長)
- 9—10 「夜に生まれる」 A~J(リトグラフ)——角田元美(絵画学科非常勤講師)
- 11—12 「不確かな世界」(油画)——木村一生(絵画学科元教授)
- 13—16 「ベニヤによるリトグラフ」(リトグラフ)——佐竹邦子(絵画学科元助手)
- 17 森の中(彫刻)——竹田光幸(彫刻学科教授)
- 18—19 「記憶するために」(パフォーマンス)——堀 浩哉(絵画学科教授)
- 21—24 金のタピストリーによるファサードデザイン(ファサードデザイン)——橋本京子(生産デザイン学科教授)
- 25—30 「公共性」を表現のアプローチとした広告の実践——中島祥文(グラフィックデザイン学科教授)
- 31—32 映像におけるデジタル化革命(広告映像作品)——中島信也(グラフィックデザイン学科教授)
- 33 雨, 落つ(日本画)——米谷清和(絵画学科教授)
- 34—37 こいずみ道具店(リビングデザイン)——小泉 誠(環境デザイン学科非常勤講師)
- 39 木馬(日本画)——宮 いつき(造形学科非常勤講師)
- 41—48 「空間認識と新たな可能性」——金 鉉淑(工芸学科元助手)
- 49—52 ウエアーのためのテキスタイル——皆川魔鬼子(生産デザイン学科教授)
- 53—63 聖路加国際病院における『木との語らい』展——竹田光幸(彫刻学科教授)
- 65—84 18世紀と19世紀の英訳ヨセフス—近代語訳の誕生とその背景 その2——秦 剛平(共通教育学科教授)

- 85—101 芸術文化の発展における経済的背景について—芸術文化支援策の世界的事例と振興への提言——駒橋恵子(共通教育学科助教授)
- 103—112 生涯学習講座の投げかけた波紋—紙芝居仲間の活動報告を中心に——庄山 晃(映像演劇学科助教授)
- 113—124 農村環境整備における色彩コントロールのあり方についての検討(3)——田口敦子(グラフィックデザイン学科教授)+小泉雅子(グラフィックデザイン学科講師)+佐藤 優(九州大学芸術工学部大学院教授)
- 125—132 「総合的な学習の時間」の実践に関する文献展望—特に進路学習を取り入れた実践について——榎本和生(共通教育学科教授)
- 133—143 伝統的着色材料の名称とその変遷—その1 古代の赤色顔料——鈴木明日香(共通教育学科助手)
- 145—154 経験の可視化表現におけるプロセスに関する研究——植村朋弘(デザイン学科講師)
- 155—161 バナナ・テキスタイル・プロジェクト—熱帯地方で大量廃棄されているバナナの茎を再利用するシステムの構築をめざして—2002年度報告書——橋本京子(生産デザイン学科教授)+弥永保子(生産デザイン学科教授)+柏木 弘(生産デザイン学科助教授)+川井由夏(生産デザイン学科講師)+福岡裕子(共通教育学科非常勤講師)
- 163—174 *To Encircle Base Plate Hexagram, Right Angles Inverted*—多摩美術大学構内に設置されたりチャード・セラの彫刻に関する考察——上崎 千(芸術学科現代美術資料センター)+荻島 綾(芸術学科現代美術資料センター)
- 175—186 多摩美術大学研究紀要総目次
- 187 あとがき——森下清子(環境デザイン学科教授) ()内の職名は2004年3月末当時による

第18号(2004年3月31日発行)

- 5 18号刊行によせて——高橋史郎(多摩美術大学学長)
- 9—10 玉響(タマユラ)(リトグラフ)——三瓶光夫(絵画学科副手)
- 11 Innocent World(日本画)——神戸智行(絵画学科助手)
- 13—14 青い花の記憶(銅版画)——上田政臣(絵画学科元助手)
- 15 時空・140—旅人—/2002(彫刻)——石井厚生(彫刻学科教授)
- 17—18 MU-022(陶)——井上雅之(工芸学科助教授)
- 19—20 大阪市水上消防署サイン計画(サインデザイン)——小泉雅子(グラフィックデザイン学科講師)
- 21—23 T&T スピーカー(プロダクトデザイン)——安次富 隆(生産デザイン学科助教授)
- 25 WORK 1422(平面)——野田裕示(絵画学科教授)
- 29—30 紙のバッグ(テキスタイルデザイン)——山根文子(生産デザイン学科元助手)
- 31—32 the reconstructed check pattern #03(テキスタイルデザイン)——小出浩志(生産デザイン学科元助手)
- 33 「記録」(ミクストメディア)——上條陽子(造形学科客員教授)
- 35—44 眼の色特性判定法の提案——脇 リギオ(名誉教授)
- 45—48 我が国の焼玉エンジン——川上顕治郎(生産デザイン学科教授)
- 49—56 知覚によるインターフェイス考察——三上晴子(情報デザイン学科助教授)
- 57—66 瀧口修造と映画—いくつかの接点——西嶋憲生(芸術学科教授)
- 67—80 ドロシー・カニング・ミラーとアメリカの美術(1942-1963)——村山康男(芸術学科教授)
- 81—86 Creative Fusion: France and Japan in the Art of Monet——大道文子(共通教育学科教授)
- 87—115 北吟吉基礎研究報告—書誌学的研究を中心として——西谷成憲(共通教育学科教授)
- 117—127 知識情報空間の仕組に関する研究—アニメ映画『となりのトトロ』を事例として——植村朋弘(デザイン学科講師)
- 129—139 映画におけるサウンドトラックの可能性をめぐる——内野 徹(映像演劇学科助手)
- 141—148 プフォン論争—J.L.ルソーの果たした役割を中心に——小穴晶子(共通教育学科教授)
- 149—161 多摩美術大学研究紀要総目次
- 162 あとがき——建島 哲(芸術学科教授) ()内の職名は2005年3月末当時による

第19号 (2005年3月31日発行)

- 5 第19号の発刊に寄せて——高橋史郎(多摩美術大学学長)
- 9—10 ROBOTS(コンピュータグラフィック)——杉山 実(絵画学科助手)
- 11—12 青い硝子の部屋のひとたち(日本画)——戸田康一(絵画学科教授)
- 13—15 4と5(March-21-2004)(油画)——辰野登恵子(絵画学科教授)
- 16—19 オマージュ展(ミクストメディア)——室越健美(絵画学科教授)
- 21—27 around the bush(木版画)——佐野広章(絵画学科元助手)
- 29—30 タビ(彫刻)——安倍千隆(彫刻学科教授)
- 31—32 SCENE0204(バイエルンの小さな村より)(ガラス造形)——池本一三(工芸学科助教授)
- 33—34 INOUI ID(写真)——清水行雄(グラフィックデザイン学科教授)
- 35—38 “Day to day”, “Sign” and “Seeking”(テキスタイルデザイン)——川井由夏(生産デザイン学科講師)
- 39—40 浮遊する立体 “when where how…”(テキスタイルデザイン)——長沢桂一(生産デザイン学科元助手)
- 41—43 「リヒャルト・パウル・ローゼ」展会場構成(展示デザイン)——山下 泉(環境デザイン学科教授)
- 45—48 コンピュータのしくみ(アニメーション)——原田 泰(情報デザイン学科助教授)
- 49—54 水の階・風の象Ⅰ・Ⅱ(彫刻)——海老塚耕一(芸術学科教授)
- 55—57 ストロベリーフィールズ(油画)——橋本トモコ(造形学科元助手)
- 59—68 多摩美術大学共同研究「小学生の創造性支援の研究」——田口敦子(グラフィックデザイン学科教授) + 楠 房子(情報デザイン学科助教授)
+ 遠田 毅(八王子市立鍵水小学校教員) + 廣瀬俊彦(グラフィックデザイン学科元助手) + 村井 睦(生産デザイン学科元非常勤講師) + 山中
幸生(グラフィックデザイン学科助手)
- 69—73 ホームロボット・デザイン——和田達也(生産デザイン学科教授)
- 75—87 避難誘導サインシステムの提案—1——太田幸夫(デザイン学科教授)
- 89—95 DVDによる塑造関連技法書「塑造への誘い」——工藤 健(彫刻学科教授)
- 97—106 リアルタイム音響映像芸術に関する研究——久保田晃弘(情報デザイン学科教授)
- 107—117 日本のIT・ソフトウェア産業の歴史と今後の課題—コモディティ化とオープン化の進展——砂田 薫(共通教育学科非常勤講師)
- 119—124 マンガにみる日本のスポーツ文化—「巨人の星」を手がかりにして——佐原龍誌(共通教育学科教授)
- 125—136 瀧口修造のスケッチブック：批評的読解——松井勝正(芸術学科非常勤講師)
- 137—164 七十人訳ギリシア語聖書の背後にあるヘブル語テキスト—創世記と出エジプト記の場合 その1——秦 剛平(共通教育学科教授)
- 165—177 多摩美術大学研究紀要総目次
- 178 あとがき——建畠 哲(芸術学科客員教授) ()内の職名は2006年3月末当時による

第20号 創立70周年記念(2006年3月31日発行)

- 5 創立70周年記念号の発行によせて——高橋史郎(多摩美術大学学長)
- 9—10 Humor Illustration Poster(セリグラフ)——秋山 孝(グラフィックデザイン学科教授)
- 11—13 杜(日本画)——市川保道(絵画学科教授)
- 15—16 彩に挑戦(油彩画)——鶴見雅夫(名誉教授)
- 17—19 動物園にて サルを描くこと(油彩画)——相笠昌義(絵画学科教授)
- 21—23 を—73(絵画)——吉澤美香(絵画学科助教授)
- 25—27 ふみ出す男(木版画)——小作青史(名誉教授)
- 29—32 版画を使った平面絵画(ミクストメディア)——大塩紗永(絵画学科元助手)
- 33—36 幸せをもたらす手(彫刻)——竹田光幸(彫刻学科教授)
- 37—39 雲谷-I(彫刻)——青木野枝(彫刻学科助教授)
- 41—43 石を積むこと(陶)——井上雅之(工芸学科教授)
- 45—47 オルニス—花になった鳥たち(テキスタイルデザイン)——檜垣 檀(生産デザイン学科教授)
- 49—53 “ORIGAMI—折り紙” 中部国際空港旅客ターミナル 国際線到着コンコース(アートワーク)——橋本京子(生産デザイン学科教授)

- 55—57 街角に祈りの光を(建築)——田淵 諭(環境デザイン学科教授)
- 59—61 Lake Awareness(インタラクティブ・アート)——森脇裕之(情報デザイン学科助教授)
- 63—64 溯上する記憶(日本画)——新山 拓(造形学科助手)
- 65—66 やすらぎ(彫刻)——吉野 毅(造形学科客員教授)
- 67—72 The Sign—ブループラネット賞表彰式典のための映像作品(映像)——西岡文彦(デザイン学科助教授)
- 73—80 写真表現の考察—デジタルカメラで何が写せるのか(写真)——十文字美信(グラフィックデザイン学科教授)
- 81—88 グレープフルーツと、戯れの人為的制作(金属造形)——留守 玲(工芸学科元助手)
- 89—97 [研究報告] 東京国際ミニプリント・トリエンナーレによる共同研究——森野真弓(絵画学科教授)
- 99—107 [研究報告] 「あそびじゅつ」の理論と実践——海老塚耕一(芸術学科教授) + 大塚 藍(グラフィックデザイン学科助手)
- 109—114 [研究論文] 風船について—充気膜造形論ノート——高橋史郎(情報デザイン学科教授)
- 115—119 [研究報告] 室町後期の地方寺院法式ノート—遠江鷲津本興寺の置文について——清田義英(共通教育教授)
- 121—134 [研究論文] 日本・中国のイラストレーションポスター(その1)—中国建国初期と文化大革命のイラストレーションポスター——秋山 孝(グラフィックデザイン学科教授)
- 135—143 [研究論文] エゴン・シーレの「四本の木」—寓意と象徴の表現病理——伊集院清一(共通教育教授)
- 145—150 [研究報告] 「デザイン・マネジメント」のための組織運営——岩倉信弥(生産デザイン学科教授)
- 151—160 [研究報告] 嗚呼、頁が折れちゃった—草双紙のオカシミ——近藤秀實(共通教育教授)
- 161—170 [研究報告] 上野毛アートブリッジ——山中玄三郎(デザイン学科教授)
- 171—185 [研究報告] パナナ・テキスタイル・プロジェクト—2004年度報告書——橋本京子(生産デザイン学科教授) + 川井由夏(生産デザイン学科講師) + 福岡裕子(共通教育非常勤講師) + 長沢桂一(生産デザイン学科元助手) + 樋口明久(東京都立産業技術研究センター研究員)
- 186—194 [研究報告] 認知症予防教室におけるアートセラピー—高齢者の生活と芸術療法の接点——伊集院清一(共通教育教授) + 渡辺達正(絵画学科教授) + 中山隆右(絵画学科非常勤講師) + 保高一仁(山野美容芸術短期大学非常勤講師) + 世一安子(美術作家)
- 195—201 [研究報告] ポスト・インターフェイス時代のサウンド・パフォーマンス——久保田晃弘(情報デザイン学科教授)
- 203—211 [研究論文] 「個人映画」の映像表現——鈴木志郎康(映像演劇学科客員教授)
- 213—226 [研究論文] 音楽機械論—その歴史と展望——ヲノサトル(共通教育助教授)
- 227—240 [研究論文] 風景における「記憶」というDNAの継承について—横浜港産業遺産を活用した「汽車道」のデザインプロセスからの考察——祐乗坊 進(共通教育非常勤講師)
- 241—252 [研究論文] 『三人姉妹』試論——笠原 仁(映像演劇学科非常勤講師)
- 253—267 [研究論文] 金工の埋蔵物—「湯床吹き」と「鍛金」をめぐる——関井一夫(工芸学科非常勤講師)
- 269—278 [Speech] Robert Trail, the first Irish critic of William Whiston's translation of Josephus——秦 剛平(共通教育教授)
- 279—296 [研究論文] 1982年の激震—一枚のファッション写真が引き起こした世界の再構築——高橋周平(共通教育教授)
- 297—310 多摩美術大学研究紀要総目次
- 311 あとがき——松田直成(共通教育教授) ()内の職名は2007年3月末現在による

第21号(2007年3月31日発行)

- 5 研究紀要21号の発行によせて——高橋史郎(多摩美術大学元学長)
- 9—10 “birdland”(木版画)——岩切裕子(絵画学科非常勤講師)
- 11—13 蕭蕭(四)(日本画)——中野嘉之(絵画学科教授)
- 15—18 ヒトのかたち・仏のかたち(油彩画)——今井信吾(絵画学科教授)
- 19—21 円環の中で(彫刻)——水上嘉久(彫刻学科教授)
- 23—24 コンピュータ・アートの原風景(コンピュータ・グラフィックス)——草深幸司(グラフィックデザイン学科元教授)
- 25—27 近年のプリントデザイン(テキスタイルデザイン)——高橋 正(生産デザイン学科教授)
- 29—34 冬山についてのノート(版画)——南館麻美子(絵画学科元助手)
- 35—39 Part of life—共有する言語をかたちに(陶)——藤井志帆(工芸学科元助手)
- 41—43 perfect 8(デジタルプリント)——三田健志(芸術学科助手)

- 45—47 日常の透間(油彩画)——服部篤浩(造形学科助手)
- 49—56 Translator's High(インスタレーション, 映像)——雨宮庸介(絵画学科元助手)
- 57—66 [研究論文] 日本・中国のイラストレーションポスター(その2)——美人画イラストレーションポスター——秋山 孝(グラフィックデザイン学科教授)
- 67—79 [研究論文] 野生のアーカイヴ—南方熊楠論——安藤礼二(芸術学科准教授)
- 81—99 [研究論文] 《フィールド・ミュージアム・ネット》の展開と「子規庵」研究——平出 隆(芸術学科教授)+松井貴子(宇都宮大学国際学部准教授)
- 101—116 [研究論文] テル・バスタ(Tell Basta)—考古学的発掘調査のための「約束の地」——秦 剛平(共通教育教授)
- 117—123 [研究報告] 産学共同研究「インサイド」からの報告——田中秀樹(生産デザイン学科准教授)
- 125—134 [研究報告] 古レールの構築——岸本 章(環境デザイン学科准教授)
- 135—139 [研究報告] 改造文化考—on bending culture——久保田晃弘(情報デザイン学科教授)
- 141—146 [研究論文] ドメスティック・バイオレンスと児童虐待への取り組み——末永ひみ子(共通教育非常勤講師)
- 147—156 [研究論文] Lingua Francaあるいは国際語としての英語——吉田和弘(共通教育非常勤講師)
- 157—162 [研究報告] e-Workshopの実施制作研究——森脇裕之(情報デザイン学科准教授)+高橋史郎(情報デザイン学科教授)+石黒敦彦(情報デザイン学科非常勤講師)
- 163—174 [研究報告] 学習活動の現場でのデザイン開発——永井由美子(情報デザイン学科非常勤講師)
- 175—180 [研究報告] 予防自助組織としての絵画サークル——伊集院清一(共通教育教授)+渡辺達正(絵画学科教授)+中山隆右(絵画学科非常勤講師)+保高一仁(山野美容芸術短期大学非常勤講師)
- 181—184 [研究論文] A Cognitive Approach to Language Learning——David Phillip Baca(共通教育非常勤講師)
- 185—206 [研究報告] 戦後占領期教育資料報告——西谷成憲(共通教育教授)
- 207—230 [研究報告] グラフィカル・シンボル(図記号)の理解度調査に関する研究——太田幸夫(デザイン学科教授)
- 231—245 多摩美術大学研究紀要総目次
- 246 あとがき——松田直成(共通教育教授) ()内の職名は2008年3月末現在による

第22号(2008年3月31日発行)

- 5 足長鳴(メゾチント, ドライポイント)——中野嘉之(絵画学科教授)
- 7—11 水と器(日本画)——市川裕司(絵画学科助手)
- 13—15 「零度」輝きを求めて(ミクストメディア)——木嶋正吾(絵画学科教授)
- 17—23 「五風十雨・五十部の細道図」によせて(絵画)——菊地武彦(絵画学科准教授)
- 25—28 蛇と鳥の眼差し(インスタレーション)——前野智彦(絵画学科元助手)
- 29—30 モーニングサンライズ(彫刻)——工藤 健(名誉教授)
- 31—34 接合美(金属造形)——長谷川 創(工芸学科元助手)
- 35—37 海からの贈りもの—Air III(テキスタイル・アート)——弥永保子(生産デザイン学科教授)
- 39—45 制作ノート2007から—鳥は卵のなかからぬけ出ようと戦う(彫刻)——海老塚耕一(芸術学科教授)
- 47—50 「我思故脳在」—Hyper brain communication(ミクストメディア)——佐々木里加(造形学科助手)
- 51—56 公共哲学の装丁について—公共性を意匠する試み(エディトリアル・デザイン)——西岡文彦(デザイン学科准教授)
- 57—60 「海坂の絵巻」について(インスタレーション)——石田尚志(映像演劇学科講師)
- 61—66 「月山湖サマーフェスタ」における流木アート(ワークショップ)——松田重仁(共通教育非常勤講師)+佐藤孝明(共通教育非常勤講師)
- 67—77 [研究論文] 企業にみるデザイン共創力——岩倉信弥(生産デザイン学科教授)
- 79—86 [研究論文] ムカルナスの造形原理——高橋士郎(情報デザイン学科教授)
- 87—103 [研究論文] デジタルイメージ考—on the digital image——佐々木成明(情報デザイン学科准教授)
- 105—122 [研究論文] 土方巽と美術—「舞踏ノート」における引用図版と舞踏の言葉を参考として——國吉和子(芸術学科非常勤講師, 映像演劇学科客員教授)
- 123—133 [研究論文] 『キルヤム・ブレイク書誌』にみる民藝運動の揺籃期—その装丁における形式と意匠——磯部直希(芸術学科非常勤講師)
- 135—148 [研究論文] 騎士からブッダへ—騎士道ロマンスとして読み解くコンラッドの『闇の奥Heart of Darkness』——川上純子(芸術学科非常勤講師)

- 149—158 [研究論文] 小林秀雄『近代繪畫』について—小林秀雄の美術評論とその方法——土屋誠一(芸術学科元助手)
- 159—171 [研究論文] 枝隠庵の住人—呉彬の実像—文献資料編(1)——近藤秀實(共通教育教授)
- 173—181 [研究論文] 美術市場のダイナミック・ケイパビリティ—文化資源を發展させる「場」として——松村 崇(共通教育非常勤講師)
- 183—190 [研究論文] テレビゲームの感性学に向けて——吉田 寛(共通教育元非常勤講師)
- 191—206 [研究報告] 新しい工芸教育をめぐる総合研究—大学における工芸教育の比較に見るさまざまな工芸像——井上雅之(工芸学科教授)+尹熙倉(工芸学科准教授)+樋口健彦(工芸学科非常勤講師)+富田康子(横須賀美術館学芸員)
- 207—210 [研究報告] e-WORKSHOPの実施制作研究(2)—多局間ワークショップの実験——森脇裕之(情報デザイン学科准教授)
- 211—214 [研究報告] 大学連携のデザイン教育プログラム——矢野英樹(情報デザイン学科講師)
- 215—221 [研究報告] 命を守る『薬の正しい服用指示』デザイン——太田幸夫(デザイン学科教授)
- 223—238 多摩美術大学研究紀要総目次
- 239 あとがき——松田直成(共通教育教授) ()内の職名は2009年3月末現在による

第23号(2009年3月31日発行)

- 5—6 Diagram地図作製(シール)——小泉健太郎(絵画学科元助手)
- 7—8 永代映し(日本画)——米谷清和(絵画学科教授)
- 10—12 対岸の森(彫刻)——小泉俊己(絵画学科教授)
- 13—19 丸亀をあるく—2008年8月5日~10月14日(ミクストメディア)——秋山さやか(絵画学科元非常勤講師)
- 21—26 はしら [柱]—a pillar, a post, a column, a pole.(木版画)——加藤貴義(絵画学科元助手)
- 27—28 Pillars—木漏れ日(木彫刻)——竹田光幸(彫刻学科教授)
- 29—32 「やる気のない庭」をめぐって(陶)——尹 熙倉(工芸学科准教授)
- 33—35 UNTITLED 08-Ⅲ(絵画)——柏木 弘(生産デザイン学科准教授)
- 37—43 花摘みの証拠(デジタルプリント)——三田健志(芸術学科助手)
- 45—46 人間(油画)——松村浩之(造形学科元助手)
- 47—53 やき「もの」、やき「こと」(インスタレーション)——中田ナオト(大学院助手)
- 55—59 [研究論文] 常滑と丹波の陶片自然釉色彩に関するデジタル画像分析——泉 滋三郎(共通教育非常勤講師)
- 61—69 [研究論文] 新しさのつくり方—形という記号が運ぶ意味——濱田芳治(生産デザイン学科准教授)
- 71—95 [研究論文] 六朝美学の再構築—『世説新語』に載述を読む——近藤秀實(共通教育教授)
- 97—108 [研究論文] 高知県・須崎市上分大日堂大日如来像の周辺——青木 淳(共通教育准教授)
- 109—128 [研究論文] 生涯学習におけるIT活用に関する一考察——大嶋淳俊(共通教育非常勤講師)
- 129—147 [研究論文] 戦前のアート・アニメーション—アマチュア映画作家のアニメーションをめぐる状況について——西村智弘(共通教育非常勤講師)
- 149—154 [研究報告] 20世紀ポスターコレクションのアーカイブ作成・公開に関する研究(1)——山本政幸(グラフィックデザイン学科准教授)
- 155—161 [研究報告] 今井兼次共同研究報告—第1次3ヵ年計画[平成17-19年度]——山下 泉(環境デザイン学科教授)
- 163—170 [研究報告] GUIを再発明する：ポスト・ウィンドウ・インターフェイス序論——久保田晃弘(情報デザイン学科教授)+宮崎光弘(情報デザイン学科教授)+永原康史(情報デザイン学科教授)+松田純一(Macテクノロジー研究所主宰)+大谷和利(テクノロジー・ライター)+杉山久仁彦(デザイン学科非常勤講師)
- 171—190 [研究報告] シベリアの「生命デザイン」—アムール沿岸の民族装飾からみるユーロ=アジア世界の造形表象——鶴岡真弓(芸術学科教授)
- 191—210 [研究報告] 《フィールド・ミュージアム・ネット》の理論と実践——平出 隆(芸術学科教授)+宮本飛鳥(芸術人類学研究所特別研究員)+宮田浩介(芸術人類学研究所特別研究員)+朴 文順(芸術人類学研究所特別研究員)+大室佑介(芸術人類学研究所特別研究員)+石倉敏明(芸術人類学研究所助手)
- 211—218 [研究報告] キャリア発達に関する基礎研究—本学学生のキャリア発達支援プログラムの開発をめざして——榎本和生(共通教育教授)
- 219—210 [研究報告] 避難誘導システムのJIS規格認定に関する研究——太田幸夫(デザイン学科教授)
- 227—243 多摩美術大学研究紀要総目次
- 245 あとがき——松田直成(共通教育教授) ()内の職名は2010年3月末現在による

第24号 (2010年3月31日発行)

- 5—7 来迎(合羽刷り)——西岡文彦(デザイン学科教授)
- 9—12 描くこと(日本画)——岡村桂三郎(絵画学科教授)
- 13—17 絶対水平感(絵画)——堀 浩哉(絵画学科教授)
- 19—22 小さくも実り—「アーティスト・ファイル2009—現代の作家たち」展より(油彩画)——金田実生(絵画学科元非常勤講師)
- 23—29 西向きの窓—純化された感覚(木版画)——渡邊麻衣子(絵画学科元助手)
- 31—33 時空・140—旅人—(彫刻)——石井厚生(彫刻学科教授)
- 35—40 樋口制作所活動事情(立体)——樋口健彦(工芸学科非常勤講師)
- 41—43 mingle—ガラスとテキスタイルのコラボレーション(テキスタイル)——吉川真由(生産デザイン学科講師)
- 45—49 ポチョムキンの風(インスタレーション)——海老塚耕一(芸術学科教授)
- 51—54 「憧れの純真無垢」(日本画)——小田恵理子(共通教育助手)
- 55—58 絵画制作としてのドローイング(ドローイング)——庄司敦子(造形学科助手)
- 59—71 [研究論文] 雪舟筆天橋立図論の序——島尾 新(共通教育教授)
- 73—82 [研究論文] ルーセル考：自由芸術の発明——高橋士郎(情報デザイン学科教授)
- 83—89 [研究論文] ポスト・グラフィティの再適応の試み(英文)——荏開津 広(芸術学科非常勤講師)
- 91—102 [研究論文] 自然エネルギーを利用した軌道系交通システムに関する基礎実験——亀谷崇樹(教務部) + 鈴木源治(東京電機大学) + 原田芳彦(元JFEエンジニアリング) + 勝間ひでとし(共通教育教授)
- 103—134 [研究論文] 六朝美学の再構築(2)—戴逵・戴勃・戴顛・五石散——近藤秀實(共通教育教授)
- 135—152 [研究論文] リーダーシップ研究の系譜と発展—「リーダーシップ開発論」の展開——大嶋淳俊(共通教育非常勤講師)
- 153—169 [研究報告] 新しい陶教育をめぐる総合研究——井上雅之(工芸学科教授) + 北澤憲昭(工芸学科非常勤講師) + 北村仁美(東京国立近代美術館工芸館主任学芸員) + 富田康子(横須賀市美術館主任学芸員) + 尹 熙倉(工芸学科准教授)
- 171—176 [研究報告] 20世紀ポスターコレクションのアーカイブ作成・公開に関する研究(2)——山本政幸(グラフィックデザイン学科准教授)
- 177—186 [研究報告] バイオメディア・アート——久保田晃弘(情報デザイン学科教授) + 岩崎秀雄(早稲田大学理工学術院准教授、さきがけ研究員)
- 187—233 [研究報告] ユーロ = アジア世界を横断する「生命デザイン」——鶴岡真弓(芸術学科教授) + 五十嵐芳子(言叢社編集者) + 島 亨(言叢社編集者)
- 235—256 [研究報告] 造形表現学部造形学科平成20年度共同研究 素材研究IV「美術における黒の考察」——松下宣廉(造形学科教授) + 田中康夫(造形学科教授) + 松村浩之(博士後期課程) + 宮 いつき(造形学科教授) + 青木 淳(共通教育准教授)
- 257—273 多摩美術大学研究紀要総目次
- 275 あとがき——松田直成(共通教育教授) ()内の職名は2011年3月末現在による

第25号 (2011年3月31日発行)

- 5 よ—15(シルクスクリーン)——吉澤美香(絵画学科教授)
- 7 「割れた鏡のハーモニー」—序章(日本画)——戸田康一(絵画学科元教授)
- 9—12 「空との距離Ⅷ」をめぐる覚え書き(絵画)——日高理恵子(絵画学科教授)
- 13—17 ライフワーク 2006~2010(インスタレーション)——開発好明(絵画学科元非常勤講師)
- 19—22 うつしとる行為(版画)——鷹野 健(絵画学科元助手)
- 23—25 大地の殻傘(彫刻)——安倍千隆(彫刻学科教授)
- 27—30 石になる(陶)——内田智士(工芸学科元助手)
- 31—37 CULTEX—textile as a cross-cultural language(テキスタイル)——川井由夏(生産デザイン学科准教授)
- 39—46 On the contour line(デジタルプリント)——三田健志(芸術学科元助手)
- 47—49 アンビバレンス・コンセプト(木彫)——金巻芳俊(共通教育助手)
- 51—56 遊行 版画の単独手法たり得る合羽刷を求めての四十年(合羽刷)——西岡文彦(デザイン学科教授)

- 57—59 「くじらのはなし」のはなし～制作過程の考察～(絵画)——齋藤 将(造形学科非常勤講師)
- 61—83 [研究論文] 顔輝『鉄拐仙人像』再考—鉄拐仙人の眼は何故青い——近藤秀實(共通教育教授)
- 85—95 [研究論文] 長崎・三川内焼の意匠——泉 滋三郎(共通教育非常勤講師)
- 97—104 [研究論文] 多文化社会における識字—すべての人びとの識字の実現へ向けて——末永ひみ子(共通教育非常勤講師)
- 105—116 [研究論文] ゴーギャンにおける宗教概念—デュパルル—司教、ファン・ゴッホ、デュルケムに照らして——廣田治子(共通教育非常勤講師)
- 117—137 [研究論文] 3D とホログラフィ——檜山茂雄(映像演劇学科准教授) + 石川 洵 + 勝間ひでとし(共通教育元教授)
- 139—147 [研究論文] 戦略的人的資源管理論から戦略的人材育成論への展開に関する一考察——大嶋淳俊(共通教育非常勤講師)
- 149—159 [研究論文] 色彩の標準化とカラーチャートから見た日本のガラパゴス化——日高杏子(グラフィックデザイン学科・共通教育非常勤講師)
- 161—174 [研究論文] 裸の精霊 後期旧石器時代の女性小像について——石倉敏明(芸術人類学研究所助手)
- 175—194 [研究報告] 平成 21 年度 新しい陶教育をめぐる総合研究——北澤憲昭(女子美術大学大学院教授) + 富田康子(横須賀市美術館主任学芸員) + 北村仁美(東京国立近代美術館工芸館主任学芸員) + 井上雅之(工芸学科教授) + 尹 熙倉(工芸学科准教授)
- 195—200 [研究報告] 生命の情報表現に関する唯物論的アプローチ——久保田晃弘(情報デザイン学科教授)
- 201—205 [研究報告] 情報芸術の研究——高橋士郎(情報デザイン学科教授)
- 207—219 [研究報告] 《記憶—記念碑》のトポロジー的研究——平出 隆(芸術学科教授) + 大室佑介(芸術人類学研究所特別研究員) + 宮本飛鳥(芸術人類学研究所特別研究員)
- 221—238 [研究報告] 「重ね」と「嵌めこみ」の造形喩法をめぐる—北東アジア古層の身体造形、身体衣装・装飾文化から——鶴岡真弓(芸術学科教授) + 島 亨(言叢社編集者) + 五十嵐芳子(言叢社編集者)
- 239—256 多摩美術大学研究紀要総目次
- 257 あとがき——近藤秀實(共通教育教授) ()内の職名は2012年3月末現在による

第26号 (2012年3月31日発行)

- 5 2011_P01(シルクスクリーン)——高橋 正(生産デザイン学科教授)
- 7—11 終わりのない繰り返しのプロセス(日本画)——日比野拓史(絵画学科助手)
- 13—18 Atlas(インスタレーション)——小泉俊己(絵画学科教授)
- 19—23 展覧会記録 2011(油彩画)——日野之彦(絵画学科講師)
- 25—28 キャラクターデザインとその展開(版画)——田中新兵(絵画学科元助手)
- 29—32 Trolldom(陶磁)——青木克世(工芸学科元非常勤講師)
- 33—40 Limited Nature(テキスタイル)——大野亜紀(生産デザイン学科助手)
- 41—47 そして、水の皮膚の裏側からそっと(インスタレーション)——海老塚耕一(芸術学科教授)
- 49—52 浮上する風景(油彩画)——今野 治(造形学科助手)
- 53—57 『なぞる』と云う「作品」に就いての考察(ドローイング)——山本浩生(デザイン学科非常勤講師)
- 59—66 “SEE-SEA-SAW” 3つのS(映像)——鈴木余位(映像演劇学科助手)
- 67—80 [研究論文] 20世紀後半 現代陶芸の50年—ナラティブ/自分史/回顧/展望——中村錦平(名誉教授)
- 81—90 [研究論文] 日本のマンガにおける「食」の表現とは何か——堅田陽子(芸術学科助手)
- 91—109 [研究論文] 明末福建莆田出身の画家達、曾鯨・呉彬・趙珣—日本との関係を中心に——近藤秀實(共通教育教授)
- 111—121 [研究論文] 『桃花扇』と藍瑛——口井知子(共通教育非常勤講師)
- 123—140 [研究論文] アクションラーニングによる次世代リーダー育成に関する一考察——大嶋淳俊(共通教育非常勤講師)
- 141—156 [研究論文] 生命と芸術の発生—(母)の聖性表現について——石倉敏明(芸術人類学研究所元助手)
- 157—182 [研究報告] 美術教育活動とアートセラピーの共同研究——竹田光幸(彫刻学科教授)
- 183—189 [研究報告] 今井兼次共同研究報告Ⅱ—第2次3ヵ年計画[平成20-22年度]——岸本章(環境デザイン学科教授)
- 191—196 [研究報告] あらゆるビットがかたちになる：情報形態可逆変換法——久保田晃弘(情報デザイン学科教授)
- 197—205 [研究報告] 視覚障害者に対する芸術鑑賞の方法——海老塚耕一(芸術学科教授) + 岩崎 清(ギャラリー TOM 副館長) + 渡辺達正(絵画学科教授) + 本江邦夫(共通教育教授) + 野田尚稔(世田谷美術館学芸員) + 立浪佐和子(横須賀美術館学芸員) + 中村貴絵(横須賀美術館)

学芸員) + 赤松祐樹(DIC 川村記念美術館学芸員) + 堤 鉄博(岐阜県立岐阜盲学校教諭)

- 207—217 [研究報告] 《記憶—記念碑》のトポロジー的研究—その展開と構想——平出 隆(芸術学科教授) + 宮本飛鳥(芸術人類学研究所特別研究員) + 扉野良人(芸術人類学研究所特別研究員)
- 219—229 [研究報告] 本学新入生のキャリア意識に関する実態調査(中間報告)——榎本和生(共通教育教授) + 木嶋正吾(絵画学科教授) + 佐原龍誌(共通教育教授) + 西谷成憲(共通教育教授) + 松田直成(共通教育教授) + 三宅章介(東海学園大学経営学部教授)
- 231—265 [研究報告] 共同研究「ユーラシアの生命デザイン」韓民族の「装飾文化」—韓国の国立博物館と史跡における調査——鶴岡真弓(芸術学科教授) + 五十嵐芳子(言叢社編集者) + 島 亨(言叢社編集者)
- 267—285 多摩美術大学研究紀要総目次
- 287 あとがき——近藤秀實(共通教育教授) ()内の職名は2013年3月末現在による

第27号(2013年3月31日発行)

- 5—6 集積するもの(木版画)——久後育大(絵画学科元助手)
- 7—14 絵画のかたち／絵画の姿(絵画)——野田裕示(絵画学科教授)
- 15—21 Rebirth + (油彩画)——水野 暁(絵画学科非常勤講師)
- 23—28 リトグラフエッチング再考(版画)——榎本久水(絵画学科元助手)
- 29—31 sensimeter(塑像)——木村剛士(彫刻学科助手)
- 33—40 素材+場+人がうみだすもの—エンセーテ繊維を用いたものづくりを通して(テキスタイル)——高野絃子(生産デザイン学科助手)
- 41—47 衛星家族写真—Google時代の肖像(写真)——古屋和臣(情報デザイン学科元助手)
- 49—52 世界の捉え方についてのノート(木版)——渡邊悠子(芸術学科助手)
- 53—56 手紙(日本画)——梅木雅子(共通教育助手)
- 57—60 時明り(日本画)——北口広美(造形学科助手)
- 61—69 超普通—愛知、金沢、ミネアポリス(レポート)——中田ナオト(共通教育元助手)
- 71—76 [研究論文] 染織技術を中心とした文化的資源に関する研究—伝統的な染織品から持続可能なテキスタイル・デザイン——深津裕子(生産デザイン学科准教授)
- 77—85 [研究論文] キャラクターと無性格な登場人物——伊藤亜紗(共通教育元非常勤講師)
- 87—102 [研究論文] サンフランシスコ日本古美術展覧会(1951年)と冷戦下の日米文化外交——志邨匠子(共通教育 元非常勤講師)
- 103—113 [研究論文] インタラクシオンデザインから見た人にとってのロボットの価値—ロボットデザインにおけるデザイナーの5つの役割——長田純一(デザイン学科非常勤講師)
- 115—126 [研究論文] 20世紀初頭のイギリスにおける演劇学校——松山 立(映像演劇学科助手)
- 127—140 [研究論文] 仏陀波利訳「仏頂尊勝陀羅尼」の変遷に関する一考察——下野玲子(共通教育非常勤講師)
- 141—155 [研究論文] 文化運動としてのハーレム・ライターズ・クルー—人類学とアートの結節点の探求のために——中村 寛(共通教育准教授)
- 157—169 [研究論文] 次世代リーダー育成にみる「リーダーシップ継承」に関する一考察——大嶋淳俊(共通教育非常勤講師)
- 171—185 [研究論文] 戦前の日本にアニメーションという概念はなかった—アニメーションをめぐる名称についての考察——西村智弘(共通教育非常勤講師)
- 187—199 [研究報告] バナナ及び未利用繊維の素材活用システムの構築—2005~2012年度共同研究報告——橋本京子(生産デザイン学科教授) + 柏木 弘(生産デザイン学科教授) + 川井由夏(生産デザイン学科教授) + 深津裕子(生産デザイン学科准教授) + 妹尾めぐみ(生産デザイン学科助手) + 高野絃子(生産デザイン学科助手) + 樋口明久(東京都立産業技術研究センター主任研究員)
- 201—209 [研究報告] 芸術衛生 INVADER——久保田晃弘(情報デザイン学科教授)
- 211—218 [研究報告] 宇宙芸術による新領域プラットフォームの構築と地域実践に関する研究——森脇裕之(情報デザイン学科准教授)
- 219—236 [研究報告] 視覚障害者に対する芸術鑑賞の方法—平成24年度多摩美術大学共同研究報告——海老塚耕一(芸術学科教授)ほか
- 237—246 [研究報告] 江戸時代の長崎の美術と工芸—平戸・三川内焼の研究——泉 滋三郎(共通教育非常勤講師)
- 248—267 多摩美術大学研究紀要総目次
- 287 あとがき——海老塚耕一(芸術学科教授) ()内の職名は2014年3月末現在による

第28号 (2014年3月31日発行)

- 5 KOMA(木版画)——渡邊悠子(芸術学科元助手)
- 7—12 事象の地平面を越えて(日本画)——野川恭平(絵画学科元助手)
- 13—19 あの影にはかたよがりがありません(絵画)——栗原一成(絵画学科准教授)
- 21—27 BANGKOK-COLOMBO(2013)(絵画)——坂本佳子(絵画学科元非常勤講師)
- 29—35 対話の痕跡(版画)——鷺野佐知子(絵画学科元助手)
- 37—42 石耕(せっこう)彫刻という作物(彫刻)——村井進吾(彫刻学科教授)
- 43—49 分けないでわかるわかり方(陶)——塩谷良太(工芸学科非常勤講師)
- 51—55 麦わら細工に思う(麦稈造形)——妹尾めぐみ(生産デザイン学科助手)
- 57—61 タクスー魂の踊り子—5年間のバリ島伝統芸能の取材とドキュメンタリー映画の制作について(映像)——仁田美帆(情報デザイン学科元助手)
- 63—67 メメント・モリ・コンセプト(木彫)——金巻芳俊(共通教育元助手)
- 69—71 重力, 密度, 回転(写真)——山口祐子(映像演劇学科助手)
- 73—87 [研究論文] 荒ぶる熊を追って—(狩人) 星野道夫と「私たちの物語」——宮田浩介(芸術学科非常勤講師)
- 89—97 [研究論文] 幽霊画にみる境界の表現——荒井保洋(芸術学科助手)
- 99—124 [研究論文] 2013年, 南蕨漫遊——近藤秀實(共通教育教授)
- 125—138 [研究論文] ニーチェ哲学における多元主義と美学的思考——五郎丸仁美(共通教育非常勤講師)
- 139—151 [研究論文] ミシェル・サン＝ドニの俳優トレーニング—ロンドン・シアター・スタジオにおける試み——松山立(映像演劇学科助手)
- 153—166 [研究論文] アニメーションの概念はいかにして確立されたか—1950年代におけるノーマン・マクラレンの受容を中心に——西村智弘(共通教育非常勤講師)
- 167—177 [研究報告] ARTSAT2: 深宇宙彫刻 DESPATCH——久保田晃弘(情報デザイン学科教授)
- 179—183 [研究報告] 宇宙芸術による新領域プラットフォームの構築と地域実践に関する研究Ⅱ——森脇裕之(情報デザイン学科准教授)
- 205 あとがき——海老塚耕一(芸術学科教授)

()内の職名は2015年3月末現在による

第29号 (2015年3月31日発行)

- 5—9 CN-JP-RU——笠原恵実子(彫刻学科教授)
- 11—16 気配を追う(日本画)——長谷川幾与(日本画助手)
- 17—23 2014年の展示(月次絵Ⅱ・天円地方)によせて(絵画)——菊地武彦(絵画学科教授)
- 25—32 Someday, Someday, Where There Is...(立体)——鎌田あや(絵画学科元助手)
- 33—37 クライシスコール(銅版画)——秋山佳奈子(絵画学科元助手)
- 39—46 砂の流れ—Sand River Works(絵画)——尹熙倉(工芸学科教授)
- 47—54 デジタルメディアとイラストレーション(イラストレーション)——小川雄太郎(生産デザイン学科助手)
- 55—62 切断と組替えから(インスタレーション、ドローイング)——古田裕(映像演劇学科非常勤講師)
- 63—68 認識と実体の存在について(ビジュアルアート)——砂川啓介(造形学科助手)
- 69—74 広場劇場『ただいまのおかえり～二子玉川超遊園地時代～』—二子玉川地域連携アートプロジェクト『タマリバズ』の試み(演劇)——松山立(映像演劇学科助手)
- 75—82 [研究論文] 日本とアメリカにおける菓子のパッケージデザインに使われる配色の比較——日高杏子(グラフィックデザイン学科, 共通教育非常勤講師)
- 83—91 [研究論文] 多世代共存型コミュニティをつくる関係性のデザイン—駅前森林街:「歩きたい街」の構想——栗田宗一(デザイン学科元非常勤講師)
- 93—108 [研究論文] 教育ジャーナリスト小沢謙一研究—書誌学的研究を中心に——西谷成憲(共通教育教授)
- 109—123 [研究論文] チュニジア伝統音楽研究所「ラシディーヤ」——松田嘉子(共通教育教授)
- 125—134 [研究論文] 美術系大学における経済・経営教育に関する一考察——大嶋淳俊(共通教育非常勤講師)
- 135—150 [研究論文] アート・アニメーションとはなんであったのか—アニメーションの多様性をめぐる考察——西村智弘(共通教育非常勤講師)

- 151—170 [研究報告] パナナ及び未利用繊維の素材活用システムの構築—2013~2014 年度共同研究報告——橋本京子(生産デザイン学科教授) + 柏木弘(生産デザイン学科教授) + 川井由夏(生産デザイン学科教授) + 深津裕子(共通教育教授) + 加藤勝也(グラフィックデザイン学科講師) + 妹尾めぐみ(生産デザイン学科元助手) + 高野紘子(生産デザイン学科助手) + 樋口明久(東京都立産業技術研究センター主席研究員) + 池田善光(東京都立産業技術研究センター研究員)
- 171—175 [研究報告] 芸術衛星 INVADER の運用——久保田晃弘(情報デザイン学科教授)
- 177—183 [研究報告] 宇宙芸術による新領域プラットフォームの構築と地域実践に関する研究Ⅲ——森脇裕之(情報デザイン学科准教授)
- 185—205 多摩美術大学研究紀要総目次
- 207 あとがき——海老塚耕一(芸術学科教授) ()内の職名は2016年3月末現在による

第30号 (2016年3月31日発行)

- 5 創立 80 周年記念号の発行によせて——建島 哲(多摩美術大学学長)
- 9—13 [巻頭作品] Illustration Studies——秋山 孝(グラフィックデザイン学科教授)
- 15—24 墨—魔法の発墨を求めて(日本画)——中野嘉之(絵画学科教授)
- 25—29 呼吸と温度と静電気(日本画)——宮々丁 渡(絵画学科助手)
- 31—41 ボックス制作ノート(絵画)——室越健美(絵画学科教授)
- 43—48 制作と最近の絵画観について(絵画)——高木大地(絵画学科助手)
- 49—56 dim-plastic memory-(版画)——田中智美(絵画学科助手)
- 57—61 野ばらと焼け野原(彫刻)——佐々木友二郎(彫刻学科助手)
- 63—69 「すべての人に開かれた作品」を志向し、「装置」としての美術作品を構築(彫刻・そのほか)——海老塚耕一(芸術学科教授)
- 71—75 浮かび上がるかたち(日本画)——成澤響子(造形学科助手)
- 77—80 光の視線(インスタレーション)——平 曜(映像演劇学科副手)
- 81—87 [エッセイ] 心の源へ、私の絵画作法—あとざりしながらの前進——小林裕児(絵画学科教授)
- 89—94 [エッセイ] 描く行為をふたたび——大橋由三子(生産デザイン学科教授)
- 95—101 [エッセイ] テキスタイルプリントにおける手作業と効率性——清水谷泰伸(生産デザイン学科非常勤講師)
- 103—105 [エッセイ] 第 56 回ベネチア・ビエンナーレレポート—国別展示を再考する——小川敦生(芸術学科教授)
- 107—119 [エッセイ] デジタルを内包した映画・空間—4K 非圧縮映画の世界——檜山茂雄(映像演劇学科准教授)
- 121—125 [エッセイ] 写真技法—多重露光で撮影した作品について——山口祐子(映像演劇学科助手)
- 127—132 [創立 80 周年記念建築設計] 奈良古美術セミナーハウス 飛鳥寮——岸本 章(環境デザイン学科教授)
- 133—137 [創立 80 周年記念建築設計] 富士山麓セミナーハウス 純林苑——松澤 穰(環境デザイン学科教授)
- 139—154 [創立 80 周年記念建築設計] 八王子キャンパス計画——田淵 諭(環境デザイン学科教授)
- 155—163 [研究論文] 牛乳パッケージの色彩とデザインの日米比較文化研究——日高杏子(グラフィックデザイン学科、共通教育非常勤講師)
- 165—173 [研究論文] 清宮質文論—かなしみと無限——宮浦杏一(芸術学科助手)
- 175—191 [研究論文] 美術大学のデザイン教育における教師の指導方略の研究—物々交換ワークショップを事例として——矢野英樹(情報デザイン学科准教授)
- 193—203 [研究論文] 俳優トレーニングにおけるクラウンの構造と効果——松山 立(映像演劇学科助手)
- 205—246 [研究論文] 新安の幻影—蕭雲從と孫逸を中心に—頼山陽と田能村竹田——近藤秀實(共通教育教授)
- 247—266 [研究論文] アニメーションの概念はどのように変容したか—1960 年代初頭のリミテッド・アニメーションから考える——西村智弘(共通教育非常勤講師)
- 267—279 [研究報告] ラオスにおける伝統的クラフトデザイン研究——高橋禎彦(工芸学科教授) + 橋本京子(生産デザイン学科教授) + 安次富 隆(生産デザイン学科教授) + 山本博子(グラフィックデザイン学科教授) + 橋本 潤(環境デザイン学科准教授)
- 281—286 [研究報告] パナナ及び未利用繊維の素材活用システムの構築——橋本京子(生産デザイン学科教授) + 柏木 弘(生産デザイン学科教授) + 川井由夏(生産デザイン学科教授) + 深津裕子(共通教育准教授) + 加藤勝也(グラフィックデザイン学科講師) + 高野紘子(生産デザイン学科助手) + 樋口明久(東京都立産業技術研究センター研究員) + 池田善光(東京都立産業技術研究センター研究員)
- 287—293 [研究報告] 宇宙生成詩の実験——久保田晃弘(情報デザイン学科教授)

295—316 多摩美術大学研究紀要総目次

317 あとがき——海老塚耕一(芸術学科教授)

()内の職名は2017年3月末現在による

第31号 (2017年3月31日発行)

- 5 [巻頭作品] 共存する世界(リトグラフ)——右田啓子(絵画学科助手)
- 7—11 偶然のような必然(日本画)——木下めいこ(絵画学科・芸術学科非常勤講師)
- 13—19 「零視」「零比」「零形」(油画)——木嶋正吾(絵画学科教授)
- 21—29 A long time ago. (油画)——上野和也(絵画学科助手)
- 31—36 記憶と記録の境(版画)——石橋佑一郎(絵画学科助手)
- 37—46 カメラと窯(工芸)——中田ナオト(工芸学科非常勤講師)
- 47—53 技術, 記憶, 空間の側面から(テキスタイル)——高橋 正(生産デザイン学科教授)
- 55—61 直島キリスト教会(環境)——田淵 諭(環境デザイン学科教授)
- 63—68 私のようなもの／見ることについて(情報)——谷口暁彦(情報デザイン学科講師)
- 69—73 なぜ絵を描くのか(造形)——加藤正悟(造形学科助手)
- 75—81 写真としての幻影(写真)(映像演劇)——白井晴幸(映像演劇学科助手)
- 83—91 Painting a Collection, a Search for Living Paintings and a Fluid Operation(共通)——ティム・ソーントン(共通教育非常勤講師)
- 93—98 [研究論文] メディアアートのための生成するアーカイブ試論(前編)——馬定延(情報デザイン学科研究員), 久保田晃弘(情報デザイン学科教授)
- 99—109 [研究論文] アラスカ, 生命の熱と精神—食をめぐるクリス・マッカンドレスの探求と夜明け——宮田浩介(芸術学科非常勤講師)
- 111—130 [研究論文] 「衣服・身体・所作・思考～近代／衣服～」——加納豊美(映像演劇学科教授)
- 131—149 [研究論文] 明末清初の肖像画—孫湛を巡って——近藤秀實(共通教育教授)
- 151—162 [研究論文] 日本の飲料水ボトルの配色とデザインにみるマーケティング——日高杏子(グラフィックデザイン学科・共通教育非常勤講師)
- 163—173 [研究論文] Translucency and Light in Printed Digital Photography: the lightbox as spatial installation method——スザンヌ・ムーニー(共通教育非常勤講師)
- 175—182 [研究論文] 観光とプリミティブ・アート—ツーリスト・アートをひとつの方法として——高田佳奈(大学院助手)
- 183—201 [共同研究報告] 「版木・版本・画譜」の研究—王澐『竹雲題跋』について——近藤秀實(共通教育教授), 石橋佑一郎(絵画学科助手)
- 203—225 多摩美術大学研究紀要総目次
- 227 あとがき——丸山浩司(共通教育教授)

()内の職名は2017年3月末現在による

第32号 (2018年3月31日発行)

- 5 [巻頭作品] 制作について——川村沙耶佳(生産デザイン学科助手)
- 7—14 銀箔の硫化還元を利用した描画方法についてのノート(日本画)——花牟禮有基(絵画学科助手)
- 15—23 Blum & Poe ギャラリー個展及び出品作について(油画)——中村一美(絵画学科教授)
- 25—29 「空と樹と」展への覚え書き(油画)——日高理恵子(絵画学科教授)
- 31—36 感情のかたち(版画)——吉田仁美(絵画学科助手)
- 37—40 mesoscopic—中間視点—(彫刻)——鞍谷一樹(彫刻学科助手)
- 41—47 Active design and Passive design: 機能性と技法の選択(テキスタイル)——大谷敬司(生産デザイン学科非常勤講師)
- 49—57 「励起する表面」展のために(彫刻)——海老塚耕一(芸術学科教授)
- 59—64 [研究論文] イギリスの工場と事務所の色彩計画におけるミッドセンチュリーモダン——日高杏子(グラフィックデザイン学科非常勤講師)
- 65—76 [研究論文] メディアアートのための生成するアーカイブ試論(中編)——馬定延(情報デザイン学科研究員), 久保田晃弘(情報デザイン学科教授)

- 77—93 [研究論文]「衣服・身体・所作・思考～近代／衣服～」Part 2 アジアにおける“洋服”の受容 “中国”の場合——加納豊美(映像演劇学科教授)
- 95—120 [研究論文] 福建考覈—明末福建の蔵書家, 徐焯・謝肇淛と林志尹——近藤秀實(共通教育教授)
- 121—131 [研究論文] 欧米における「広告主側クリエイティブ・マネジメント」その現状と変化について～“日本の現状との比較”の視点から～——佐藤達郎(共通教育教授)
- 133—139 [研究論文] 緑草会編『民家図集』にみる住まいの屋外空間—古写真から分析する住環境デザイン——堤 涼子(大学院研究科助手)
- 141—152 [研究報告]「クリーナー」～次なる作法とプロダクト～——中田希佳(生産デザイン学科教授)
- 153—165 [共同研究報告] 覇権主義と美学—インディアン同化政策とアメリカ現代美術——笠原恵実子(彫刻学科教授), 小林晴夫(彫刻学科非常勤講師), 中村 寛(共通教育准教授)
- 167—189 多摩美術大学研究紀要総目次
- 191 あとがき——平出 隆(芸術学科教授) ()内の職名は2018年3月末による

第33号 (2019年3月31日発行)

- 5 [巻頭作品] 過去との邂逅と訣別(日本画)——北條正庸(絵画学科教授)
- 7—12 作品について(日本画)——山崎雷蔵(絵画学科助手)
- 13—19 イメージと周囲／領土／からっぽになる瞬間(油画)——松本玲子(絵画学科助手)
- 21—28 拡張する絵画の存在(油画)——吉野もも(絵画学科助手)
- 29—36 「蒐集」から生まれる自作(版画)——林 朝子(絵画学科助手)
- 37—42 言葉のかたち, 朔太郎の猫(工芸)——林 麻依子(工芸学科助手)
- 43—50 『家電のある生活展「暮らしのデザインミュージアム 2017」』について(プロダクト)——武正秀治(生産デザイン学科教授)
- 51—57 みてぐら(テキスタイル)——辛島 綾(生産デザイン学科講師)
- 59—70 [研究論文] 熔接熔断表現法——留守 玲(工芸学科非常勤講師)
- 71—79 [研究論文] メディアアートのための生成するアーカイブ試論(後編)——平川紀道(情報デザイン学科非常勤講師), 渡邊朋也(山口情報芸術センター学芸普及課副専門員／主任研究員), 馬定延(情報デザイン学科研究員), 久保田晃弘(情報デザイン学科教授)
- 81—97 [研究論文] 『岡本太郎とメディアアート』展によせて～現代美術史におけるメディアアートの系譜——森脇裕之(情報デザイン学科教授)
- 99—112 [研究論文] 「エキゾテック・デザイン」の環流と再創造—唐の「沈没船」から発見された中国とアラビアの「バルメット」文様——鶴岡真弓(芸術学科教授)
- 113—124 [研究論文] 岡崎市・瀧山寺十一面観音像と快慶工房—奈良・安倍文殊院文殊菩薩像, 京都・悲田院大日如来像の周縁部として——青木 淳(共通教育教授)
- 125—143 [研究論文] CIE 教育課初等教育係官ヘレン・ヘファナン基礎研究—CIE Conference Report(民間情報教育局・会見録)を中心に——西谷成憲(共通教育教授)
- 145—153 [研究論文] The acquisition of the deictic verbs iku meaning 'to go' and kuru meaning 'to come' in Japanese—from the perspective of exchangeability——高梨美穂(共通教育准教授)
- 155—161 [研究論文] 住まいの屋外空間における空地と民間信仰の関係——堤 涼子(大学院研究科助手)
- 163—171 [共同研究報告] アジアの装飾文様のアーカイブス化と教育活用に関する研究——山形季央(グラフィックデザイン学科教授), 佐々木成明(情報デザイン学科准教授), 深津裕子(共通教育教授), 伊藤俊治(情報デザイン学科客員教授)
- 173—183 [研究報告] 「殺される鹿」と「導く鹿」—メソポタミア・ペルシャ・中国・シベリアを縦断した「鹿角信仰」の造形表象——鶴岡真弓(芸術学科教授)
- 185—197 [共同研究報告] 地域社会と協働した葛植物を活用したサステナブルデザイン研究——深津裕子(共通教育教授), 佐藤達郎(共通教育教授), 川井由夏(生産デザイン学科教授), 山田菜々子(生産デザイン学科講師), 武田裕子(Hiroko Takeda Studio, NY 代表), 伊藤志信(生産デザイン学科客員教授), 村井龍彦(静岡壁紙工業株式会社代表)
- 199—222 多摩美術大学研究紀要総目次
- 223 あとがき——佐々木成明(情報デザイン学科准教授) ()内の職名は2019年3月末による

第34号 (2020年3月31日発行)

- 5 [巻頭版画] 瞳のかがやき —— 丸山浩司(共通教育教授)
- 7—16 「Jamais vu」「栖—sumika—」2つの個展を終えて(日本画) —— 三輪彩音(絵画学科助手)
- 17—22 「island」展についてのノート(油画) —— 諏訪未知(絵画学科非常勤講師)
- 23—32 内側と外側の混在する空間のあり方の話(油画) —— 堀田千尋(絵画学科助手)
- 33—38 一本の白(版画) —— 淵脇真理子(版画学科助手)
- 39—46 個展「その小さな宇宙に立つ人」と柳原義達の呪縛(彫刻) —— 中谷ミチコ(彫刻学科講師)
- 47—52 形への希求(工芸) —— 井上雅之(工芸学科教授)
- 53—61 染着し発色する色価(テキスタイル) —— 山田菜々子(生産デザイン学科講師)
- 63—80 [研究論文] 日本デザイン史におけるイラストレーションの定着とその意味の拡大について—1960年代の言説を中心に —— 塚田 優(絵画学科助手)
- 81—98 [研究論文] ベトナム中部少数民族の集会所—ニャーロンとその現状 —— 岸本 章(環境デザイン学科教授)
- 99—112 [研究論文] 情報デザイン学科卒業制作アーカイヴの構築と分析 —— 堀口淳史(情報デザイン学科助手), 久保田晃弘(情報デザイン学科教授)
- 113—126 [研究論文] 劇場空間創造からのアプローチ—劇空間と観客との曖昧な隔たり —— 上田淳子(演劇舞踊デザイン学科非常勤講師)
- 127—136 [研究論文] PESO モデル展開の順番(オーダー)についての考察—世界優秀事例の“PESO オーダー”を分析する— —— 佐藤達郎(共通教育教授)
- 137—146 [研究論文] 動詞形の獲得と、頻度および発話意図との関係性解明に向けて—Usage-Based Theoryの観点から「行く」「来る」を取り上げて —— 高梨美穂(共通教育准教授)
- 147—162 [共同研究報告] 《TAMA MON 22—多摩美術大学文様研究プロジェクト》「アジアの装飾文様のアーカイブ化と教育活用に関する研究」から「日本とアジアの群島を結ぶ文様研究」へ —— 山形季央(グラフィックデザイン学科教授), 佐々木成明(情報デザイン学科准教授), 深津裕子(共通教育教授), 伊藤俊治(情報デザイン学科客員教授)
- 163—168 [共同研究報告] フィールドワークにおける学際的調査を踏まえた制作活動のあり方とその教育方法についての研究 —— 岸本 章(環境デザイン学科教授), 安藤礼二(芸術学科教授), 橋本 潤(環境デザイン学科准教授), 中村 寛(共通教育准教授), 堤 涼子(大学院研究科助手)
- 169—192 多摩美術大学研究紀要総目次
- 193 あとがき —— 佐々木成明(情報デザイン学科准教授) ()内の職名は2020年3月末による

第35号 (2021年3月31日発行)

- 5 [巻頭作品] unknown addressee's postcard for TAU, 2021 —— 平出 隆(芸術学科教授)
- 7—13 “ダスティング”による絵画制作についてのノート(日本画) —— ホリグチシンゴ(絵画学科助手)
- 15—21 モデルを描くことについて(油画) —— 日野之彦(絵画学科准教授)
- 23—27 『右手と左手の話』について(油画) —— 埴 龍太(絵画学科助手)
- 29—36 イメージのとじこみ—「版画芸術」No.188 2020年夏号「版画アートコレクション」作品制作を経て(版画) —— 岡田育美(絵画学科助手)
- 37—44 呼吸する景色—型染技法を中心とした制作ノート(テキスタイル) —— 柳下 恵(生産デザイン学科助手)
- 45—52 日本の生活における、多様なメディアを用いたキャラクター創造について—《Waiting》の制作ノート(ミクストメディア) —— 岳 明(情報デザイン学科助手)
- 53—60 木を見て森をみる(ミクストメディア) —— 石川晶子(統合デザイン学科助手)
- 61—79 [研究論文] 古代ギリシアにおける大型ブロンズ彫刻の鑄造技法研究—レッジョ・カラーブリア国立考古学博物館蔵《リアーチェのブロンズ(戦士像A・B)》の制作工程の再構成 —— 松本 隆(彫刻学科非常勤講師)
- 81—91 [研究論文] 旅立ちとふるさとの始まり—映画「耳をすませば」と「カントリー・ロード」をめぐる —— 宮田浩介(芸術学科非常勤講師)
- 93—112 [研究論文] 内井昭蔵の「花ブロック」にみる戦後沖縄と「装飾の復権」—室川市営住宅「M-1～M-6」作品を中心として —— 磯部直希(芸術学科非常勤講師)

- 113—124 [研究論文] ポール・セザンヌの「カード遊びをする人々」についての試論—近現代芸術に潜在するゲーム——中尾拓哉(芸術学科非常勤講師)
- 125—137 [研究論文] 『グリッドシステム』の歴史認識と方法論の成立背景について——古賀稔章(統合デザイン学科非常勤講師)
- 139—147 [研究論文] 児童書に見られる直示動詞「行く」「来る」と言語習得—頻度における—考察——高梨美穂(共通教育准教授)
- 149—161 [研究論文] 熱帯文様論—インドネシア諸島の文様を中心に——深津裕子(共通教育教授), 佐々木成明(情報デザイン学科教授), 伊藤俊治(情報デザイン学科客員教授)
- 163—170 [共同研究報告] アートアーカイヴを活用したオンライン講義の試み—三上晴子の「メディア・アート原論」を事例として——石山星重良(アートアーカイヴセンター研究員), 久保田晃弘(情報デザイン学科教授)
- 171—195 多摩美術大学研究紀要総目次
- 197 あとがき——永原康史(情報デザイン学科教授) ()内の職名は2021年3月末による

第36号 (2022年3月31日発行)

- 5 [巻頭作品] collect_#2(リソグラフ)——岡本絢子(情報デザイン学科助手)
- 7—13 素材と思想の繋がり(日本画)——永岡郁美(絵画学科非常勤講師)
- 15—22 「かなたのうみ」にまつわるノート(インスタレーション)——村瀬恭子(絵画学科教授)
- 23—29 「埋める／埋もれる」の制作について(彫刻)——西村 卓(彫刻学科助手)
- 31—37 マルチメディアアートの鑑賞体験によって創造する青春の感情と記憶について(メディアアート)——尾中彩美(グラフィックデザイン学科助手)
- 39—45 Graphic recording of Graphic recording グラフィックレコーディングが示すビジュアルランゲージの存在する場所(メディアアート)——清水淳子(情報デザイン学科講師)
- 47—54 「Polygon Type シリーズ」撮影装置による像の立体撮影の試み(3D プリント画像)——浜田卓之(情報デザイン学科助手)
- 55—62 サーフェスデザインの行方—カッティングによる立体化と、虚から実の透明性へ(テキスタイル)——高橋 正(生産デザイン学科教授)
- 63—72 身体・映像・サウンド—Co. 山田うん《コスモス》音楽制作(音楽)——ヲノサトル(共通教育教授)
- 73—80 素材の研究—新聞紙粘土(立体造形)——遠藤良亮(共通教育学科助手)
- 81—99 [研究論文] 杉浦非水のデザイナーアーカイヴの創造—近代日本の文様と東西交流の視点から——深津裕子(共通教育教授), 伊藤俊治(情報デザイン学科客員教授)
- 101—114 [研究論文] 英語動詞 GO の意味と未来時表現—日本語母語話者の言語習得の観点から——高梨美穂(共通教育准教授)
- 115—132 [研究論文] ツーリズムとしての芸術祭ボランティア——荒木慎也(共通教育非常勤講師)
- 133—159 多摩美術大学研究紀要総目次
- 160 あとがき——永原康史(情報デザイン学科教授) ()内の職名は2022年3月末による

第37号 (2023年3月31日発行)

- 5 [巻頭作品] Hi/Hi(シルクスクリーン)——安原千夏(絵画学科助手)
- 7—16 When Not to Think. The relationship between craft, the craft of art and the cultivation of art. (絵画)——ティム・ソーントン(リベラルアーツセンター非常勤講師)
- 17—24 ^{はなのーと}花野音—制作支持体としての川俣シルクとの出会い(日本画)——加藤 恵(リベラルアーツセンター非常勤講師)
- 25—31 二つの展覧会「The PLANTS」、「Lovers」について(日本画)——山本 瞳(絵画学科助手)
- 33—40 記憶をもう一度たどるための作品制作について(ドローイング)——佐川日南乃(環境デザイン学科助手)
- 41—49 何が行われているのか。何が見えているのか。(立体)——高柳恵里(絵画学科教授)
- 51—58 みてぐら—繊維と人と祈りのかたち(テキスタイル)——辛島 綾(生産デザイン学科准教授)
- 59—66 鉄のもつダイナミズムについて(彫刻)——村上直樹(彫刻学科助手)
- 65—75 ジュエリーについて(金工)——山田瑞子(工芸学科非常勤講師)
- 77—83 自作における空間のあり方の研究—風景を抽象化することについて(絵画)——青島綾音(芸術学科助手)
- 85—95 [共同研究報告] 大野美代子アーカイヴスの教育活用に関する研究——湯澤幸子(環境デザイン学科教授)

- 97—105 [共同研究報告] フィールドワークにおける学際的調査を踏まえた制作活動のあり方とその教育方法についての研究 2—奈良
県天理市フィールドワーク——岸本 章(環境デザイン学科教授)、安藤礼二(芸術学科教授)、橋本 潤(環境デザイン学科准教授)、中村
寛(リベラルアーツセンター教授)、堤 涼子(常葉大学講師)、井沼香保里(大学院美術研究科助教)
- 107—124 [研究論文] パフォーマンス・プラクティス—パフォーマーの身体——楊いくみ(絵画学科助手)
- 125—140 [研究論文] 資生堂唐草から辿る日本の蔓草文様装飾の諸相——深津裕子(リベラルアーツセンター教授)、伊藤俊治(情報デザイン
学科客員教授)
- 141—153 [研究論文] 1830、40年代パリのグランド・オペラの舞台美術・演出——森 佳子(リベラルアーツセンター非常勤講師)
- 155—180 多摩美術大学研究紀要総目次
- 181 あとがき——永原康史(情報デザイン学科教授) ()内の職名は2023年3月末による